

巴 杏

三次地区医師会報

No.168

令和2年3月発行



二重虹 — double rainbow —

みなさんは、二重虹を見られた事がありますか？

令和1年9月8日18時7分、空は曇り空で、自宅のある栗屋町から東の方角に、一緒にいた妻と共に二重のきれいな虹を生まれて初めて見ました。妻も初めてだったそうです。二重虹は海外ではdouble rainbowと言われ、幸運の象徴とされているそうです。妻と一緒に見る事が出来、Luckyでした。

又、外側の副虹と内側の主虹では色の順番が逆になっており、太陽の反対側に見られ、太陽が高い位置にある時は小さな虹が、夕方等、太陽が低い位置にある時には大きな虹がみられるそうです。

松尾整形外科リハビリクリニック 松尾 洋一郎

目 次

写 真	松尾洋一郎	
巻頭言	三次地区医師会 副会長 重信 和也	2
特別寄稿		
弁護士、時々骨髄バンク	備北ひばり法律事務所 弁護士 前田 剛志	4
学術論文		
倉敷地区での心不全患者に対する取り組み ～心房細動合併心不全患者における抗凝固療法も含めて～	倉敷中央病院 循環器内科 医長 川瀬 裕一	7
抗凝固法の神話と真実	横浜国立大学附属病院 循環器内科 教授 石川 利之	9
医師会行事		
広島医学会北部支部大会及び合同カンファレンス	三次地区医療センター 病院長 安信 祐治	11
	市立三次中央病院 副院長 立本 直邦	14
三次地区医師会・事業所忘年会	三次地区医療センター 松井 希乃	16
ブロックだより		
十日市医会忘年会	栗本 清伸	18
三次医会忘年会	箕岡 康明	19
平成30年度東雲会旅行	高場 敦久	20
三次地区医師ゴルフ大会報告	久行 敦士	24
三次地区医師会釣り同好会 鯛五目釣り大会に参加して	鮫島 克佳	26
三次地区医師会 釣り同好会鯛釣り報告	松尾洋一郎	28
東西南北		
外科医のメスに国境はない その3	著 荒瀬 秀治	31
	編集 溝田忠人・溝田武人	
随 筆		
いま、考えてみましょう！三次と気候温暖のことを。	あんどう眼科 安藤 仁	46
私の主張		
2年間の研修を終えて	市立三次中央病院 平田 悠樹	51
FAX 伝言板		
最近のインフルエンザ事情	すざわ小児科 須澤 利文	52
禁煙推進・受動喫煙防止活動報告 2019.10.～12.	あんどう眼科 禁煙推進委員 安藤 仁	53
会員紹介		
	市立三次中央病院 小西 晴久	62
	木村 央	62
	藤野 圭太	63
	事務局	63
	事務局	65
	事務局	67
	須澤 利文	70
	多田 誠	

年頭のご挨拶



重 信 和 也

新年明けましておめでとうございます。昨年に続き、暖かい年明けでしたが、皆様穏やかなお正月を過ごされたことと思います。

昨年6月医師会副会長を拝命し、半年が過ぎましたが、まだまだ至らないことばかりで、ご迷惑をおかけしております。今後とも御指導御鞭撻の程、宜しくお願い致します。

昨年は新年早々に荒瀬秀賢先生、続いて秀治先生ご兄弟の訃報に接し、大変辛い年の始まりでした。荒瀬秀賢先生におかれましては、地域医療はもちろん、医師会においても多大なる御貢献をなされ、また博識に富み、車、音楽、絵画、文筆など比類なき才能をお持ちで、まさに「巨星墜つ」でした。荒瀬秀治先生は、三次市国民健康保険君田診療所で過疎地域の医療に長年にわたり貢献され、住民の方の健康を守ってこられました。改めて両先生のご冥福をお祈り致します。

さて、昨年は平成から令和へと時代の転換を迎えた年でした。平成は東西冷戦時代の終焉を象徴するベルリンの壁の崩壊に始まり、湾岸戦争、米国同時多発テロなどから、昨今

の米中対立、中東情勢など、国際情勢も大きく変化しました。国内に目を向けますと、平成の31年間は歴史上唯一戦争のない平和な時代だったと言えるのですが、一方で地下鉄サリン事件や無差別殺人などの悲惨な事件や、度重なる大震災、気象異常に伴う自然災害などが相次ぎました。犠牲になられた方や被災された方々のことを思うと心が痛むとともに、いつ我が身に降りかかって来るのか、決して安心して暮らせる時代とは言えなかったように思います。令和がより平和で安心して暮らせる時代になるよう願うところです。

昨年は10月に「地域医療構想の推進に向けた取組について～将来の医療・介護提供体制の実現に向けて～」というテーマのもと、県全域から多数の参加者を集め、圏域地对協研修会が開催されました。中西敏夫先生の備北メディカルネットワークの取組についての御講演をはじめ、シンポジウムでは活発な討論がなされ、大変有意義な時間を過ごすことができました。

また、これまで広島まで出向かなければならなかった「地域包括診療加算・地域包括診

療料に係るかかりつけ医研修会」を、ビデオ研修という形で三次でも受けることができるようになり、大変便利になりました。今後も継続できたらと考えております。

厚生労働省は9月に再編・統合の再検証が必要であるとする公立・公的病院を突然公表し、庄原地区の基幹病院であり、備北メディカルネットワークの一翼を担う庄原赤十字病院も含まれていました。地域や住民の実情を全く考慮しない、単なる机上の数字合わせだけの判断で、住民の方や医療従事者の不安を煽るような対応には納得がいきません。それぞれの病院の実情、地域の状況などを精査し、医療難民が出ないよう心ある対応を期待したいところです。

今年4月には診療報酬、介護報酬の改定がなされます。診療報酬本体は微増となるようですが、全体ではマイナス改定となります。消費税が増税になりましたが、社会保障費は今後も削減の方向であるのは間違いなく、我々にとって益々厳しくなることが予想されます。

言い尽くされたことではありますが、人口減少、少子高齢化、2025年問題などに加え、医療従事者の減少、地域偏在などなど、課題は山積しております。とくに備北地域では過疎化が加速しており、開業医の高齢化、後継者問題も直面する問題です。備北メディカルネットワークの重要性がより高まるものと思われませんが、県医師会や大学との関係を含め、今後も対策を検討していかなければならない問題です。また、都市集中型の社会では中々難しいことではありますが、仕事、教育を含め、地域をいかに魅力あるものにし、安心して暮らしやすく、「住みたい町」にするかとい

うことも重要なことで、行政などとの連携もこれまでよりさらに強めていく必要があると考えます。

働き方改革が話題になっていますが、三次地区医師会でも昭和57年医療センター開設以来大きな改定のなされていなかった就業規則、給与規定の見直しを、大倉先生を中心とした医師会諸規定検討会議で検討されております。医師会事業所のスタッフの皆さんが、より気持ちよく、より長く働ける職場となるよう努めていきたいと思っております。

今年は56年ぶりに東京オリンピック、パラリンピックが開催されます。ロゴマークや国立競技場の設計変更、マラソンコースの突然の変更など色々つまずきがあり、真夏の酷暑の時期の開催ともなりますが、日本人選手の活躍を期待したいと思います。また、カーブは昨年4連覇を逃しましたが、今年は佐々岡新監督のもと、心機一転再びトップを目指して頑張ってもらいたいところです。

最後になりましたが、先生方にとりまして良い年になりますよう、お祈り申し上げます。本年もどうぞ宜しくお願い致します。



特別寄稿

弁護士、時々骨髄バンク



備北ひばり法律事務所
弁護士 前田 剛志

敬愛する三次中央ロータリークラブの先輩である安藤先生からお声掛け頂いて、昨年12月8日に行った骨髄バンク講演会について寄稿させて頂くことになりました。自己紹介のうえで、骨髄バンク講演会について報告させて頂きます。どうぞよろしくお願ひ致します。

1 自己紹介

広島市生まれの40歳。広島大学法科大学院卒業。弁護士13年目。平成21年から備北ひばり法律事務所 (<https://bihokuhibari-law.jp/>旧「備北ひまわり基金法律事務所」)の所長弁護士。事務所は弁護士2名(私と妻)、事務員3名の体制。家庭は、子供3人(三兄弟)と猫1匹。趣味は料理、合気道、座禅、釣り。男女共同参画家庭である我が家では私が料理担当なので三食作ります。ケーキ等のお菓子、パン作りは妻担当で、私は足元にも及びません。釣りは防波堤でまだ小さい三兄弟を監視しながらサビキ釣りくらいしかできません。すざわ小児科の中待合でアオリイカの写真を見ては、ため息をついています。

2 弁護士としての現在の活動

私の父の代まで三次町に住んでいたという縁があり、当初は司法過疎(弁護士不足)解消のため、三次に赴任しました。現在は定着

して、個人事務所として名前を変え、地域の法的ニーズにできる限り広く応えるという目的で事務所を営んでいます。

近年、取扱数が多いのは、遺言や相続(遺言書・遺産分割協議書作成、遺産分割協議、遺留分減殺請求、相続放棄等)、成年後見等事件、離婚(親権、慰謝料、養育費、財産分与等)の家庭についての事件(家事事件といわれる分野)が多いです。弁護士は法律事務一般を取り扱いますが、当事務所も取扱分野を限定はしていません。内容証明郵便等の作成に始まり、裁判・調停等の代理人、財産管理人等は恒常的に取り扱っており、債務整理、消費者事件、セクハラ・パワハラ対応、労働事件、刑事事件(国選・私選・裁判員裁判)等にも随時対応しています。

特徴的なことといえば、三次市権利擁護ネットワークに設立当初から参加しており、実際に依頼を受けて、三次市、地域包括支援センターや社会福祉協議会等の関係機関と協働して、ご高齢の方や障害のある方に法的な側面から支援を行っていることです。市民後見人の養成にも関わっています。借金問題、消費者被害、虐待、DV等の様々な問題がありますが、法的問題がなくても、本人を支援

すべき親族がいないため、財産管理や医療・介護契約等を代わって行う必要がある方もいます。そういった方々の多くは、法的な支援だけでは足りず、医療・介護を要します。そのため、医師の先生方はじめ医療関係・介護関係の方々とスムーズに連携することを心掛けています。

3 三次中央ロータリークラブと骨髄バンク 啓発活動

ロータリークラブは経営者、専門職で構成される世界的な社会奉仕団体です。三次中央ロータリークラブ (<http://mcrc.server-shared.com/>) は、37名で活動しています。私は、本業のほかに、プロボノ活動として、憲法問題、人権問題、高齢者、障害者の権利擁護や子供の権利（虐待防止、いじめ予防等）の講演活動もしているのですが、今回は社会奉仕委員長として「ロータリークラブでの社会奉仕」ということで、頭を捻りました。結局、クラブの方々始め多くの方に貴重なご意見を頂き、三次市社会福祉協議会に14台の車椅子を寄贈して活用（高齢者・障害者支援、小学校での福祉教育等）、骨髄バンクの啓発活動（献血時の登録会開催、講演会）の二本柱になり、現在も活動を続けているところです。

骨髄バンク講演会は、みよし健康福祉祭りにおいて三次市民ホールきりり大ホールで行いました。実際にドナーとして骨髄提供され



た方と、白血病で骨髄提供を受けた方、広島

ドナーバンクの事務局長にそれぞれ講演頂きました。私は司会で、舞台袖から見えていましたが、ドナーによる骨髄提供という行為の尊さに、心を打たれました。

ドナーの方は、「骨髄提供のリスクはあまり深く考えなかった」と笑いながら、骨髄提供同意の席上で、医師の先生が「本当にありがとうございます。」と目を潤ませて話して下さいたことが忘れられないと話されました。また、ドナー登録だけでなく、適合通知を受けて実際に骨髄提供するためには、家族のみならず、市町、勤務先はじめ社会の理解が必要であるとも訴えられました。三次市でも助成制度が作られていることについて、ドナーバンクから詳細にご説明を頂きました。

骨髄提供を受けた女性の講演では、21年前に受けた白血病告知の衝撃、ドナーが見つかったと担当の先生から聞いた時の光明、不思議と力が湧いてきた骨髄移植、移植後の副作用のことについて昨日のこのように語られました。中でも、ドナーからもらった、ただ一通の手紙についての話は、印象的なものでした。当時はドナーと患者の手紙の交流は一往復のみという制限付きでした。移植を受けてから今まで21年間、彼女が大切に携えたその手紙には、名前も知らないドナー自身の若者らしい気軽な日常が綴られているのですが、最後の一文はこうでした。「これから先何十年もたくさんの思い出を家族みんなで作って行って下さい。心よりお祈り申し上げます。」講演者の女性は、これまでずっと返事を書きたいと願っていたということでした。「あなたから骨髄をもらって、私の血は入れ替わって、生まれ変わって、今も生きている。だから、これからもたくさんの思い出を作っていきます。」多分本人へは届かないけれど、時折目を潤ませ、声を詰まらせ、心

を震わせ、一心にドナーへ向けて綴った手紙を読む姿を拝見し、その思いがドナーに届くようにと祈らざるを得ませんでした。

こういった取り組みは、地道なものです。心に響く訴えは、人を動かすと思います。個人的には、今年は「骨髓提供同意立会弁護士」に登録し、一步踏み込み、骨髓提供同意の場面に立ち会って、当事者と一緒に命をつなぐ仕事ができればと思います。小さな力、きっかけが重なることが大事だと考え、来年度も、引き続きクラブとしての骨髓バンク啓発活動を模索したいと考えています。

みよし “ひとあるかぎり” いぎいきふれあいフェスタ

3つのまつりが同時開催
第16回みよし健康福祉まつり
みよし環境フェスタ2019
ひと・かがやきフェスタ2019

令和元年
とき 12月8日(日)
9:30~15:00
ところ 三次市民ホールきりり

オープニングセレモニー
9:30~9:40 大ホール
natural (ナチュラル)

表彰
9:50~10:30 大ホール

- ほかつ家庭表彰
- 9020 (ナチュラニマル) 達成者表彰
- 自然環境コンクール入賞表彰
- 環境と健康のホスター・環境コンクール表彰
- 自然CO2削減コンクール表彰
- 社会を明るくする運動青少年表彰

人権
12:40~13:30 大ホール

- 三次人権推進委員協議会寸劇「フツ」って何?
- 中学生人権作文入賞者朗読

★展示★

- 人権ハート紙
- かがやきメッセージ展
- 人権啓発パネル展示
- 社会を明るくする運動優秀作文展示
- 小学生人権画選作展覧会

環境

- ★ 断工本工ギギ〜eCO★
- 地中熱や太陽光発電など
- 最新のクリーンエネルギー展示
- 環境を使った石けんづくり体験
- 水質・水環境★
- 身の回りにおける水の循環をしてみよう!
- CODバックテスト体験
- 浄化槽ってなんだろ?
- ~家庭からの排水がきれになる仕組み~
- ★ 環境と健康のホスター・環境コンクール受賞作品展示★
- ★ わんこの健康会★

福祉

- 介護情報展示
- 各種ボランティア体験
- 利用者等の作品展
- 模擬サロン
- 健康体操
- 自主学習発表

健康

- 体験型計測器
- 内科医務による健康相談
- 歯科相談と口臭テスト、フッ素塗布
- アロマトハンドマッサージ

その他

- 島のバー
- フリーマーケット
- 教育館作品展
- 書ききれないほどのプログラム

主催 ● 三次市・第16回みよし健康福祉まつり実行委員会
お問合せ **みよしいきいきふれあいフェスタ事務局**

三次市福祉保健部 社会福祉課 TEL: 0824-62-6145 FAX: 0824-62-6285
三次市社会福祉協議会 福祉福祉課 TEL: 0824-62-6240 FAX: 0824-62-6287
三次市地域振興部 地域振興課 TEL: 0824-62-6242 FAX: 0824-62-6236
三次市産業環境部 環境政策課 TEL: 0824-62-6135 FAX: 0824-62-6397

この場の際は、市街地循環バス「くるん」をご利用ください。
停留所 三次市民ホールきりり

黄色いバスが目印! 発売時刻 9:24 10:24 11:24 12:24 13:24 14:24 15:24 16:24
三次市民ホールきりり所在地は左側写真です。



倉敷地区での 心不全患者に対する取り組み ～心房細動合併心不全患者における 抗凝固療法も含めて～

倉敷中央病院 循環器内科

医長 川 瀬 裕 一

高齢者心不全は高血圧、腎機能障害、悪性疾患、COPD、認知症などを併存している場合が多く、これらの疾患は心不全以上に予後に悪影響を及ぼしている。またフレイル、サルコペニアなど加齢そのものからくる問題、ポリファーマシーなど薬剤からくる問題などの疾患以外からくる問題もあり注意が必要である。高齢者心不全診療はリハビリテーション、栄養療法、服薬管理、自宅環境調整をふまえてアドバンスケアプランニング・治療意志決定を行う上で多職種・多施設連携が重要である。当講演会では1. 心不全診療のポイント、2. 当院における心不全の実際、3. 倉敷地区での取り組み、4. 心不全診療における抗凝固療法の4点について講演した。

1. 心不全診療については大原則として原因疾患の治療になるが、心不全の予後改善を目的として、病態進行を緩徐にする標準治療薬の導入や心不全増悪によるダメージや増悪の回数を減らすことも重要である。

2. 当院の心不全の診療実態の把握と治療成績、予後の評価を目的とする研究(KCH-AHF Registry)を実施し、自施設のデータから得られる情報を元に必要な診療体制を検討・更新している。当研究では年々高齢化率

が上昇し、認知症の合併率も上昇してきており、現在心不全の4人に1人が認知症を合併している点を注視していきたい。

3. 倉敷地区での取り組みにおいて、2010年7月より倉敷地域心不全連携の会、心臓リハビリ連携の会を立ち上げ、多施設・多職種での参加協力を得ている。地域全体で心不全を診るというシステム(急性期、慢性期、かかりつけ医、訪問看護ステーション等)を構築し、心不全地域連携パスを稼働させ運用している。中でも2015年1月より多職種・多施設合同で心不全手帳を作成することで患者・家族への教育と多職種・施設間の情報共有ツールとなっており、患者の意識向上、医療者同士の意識向上に寄与している。この心不全手帳の特徴は心不全患者の特徴、診療の変化に合わせて、日常診療でより活用しやすいように改訂していけるメリットがある。

4. 心房細動合併心不全における抗凝固療法について論じるが、急性心不全のうち心房細動の既往が41%との報告もあり、心房細動は心不全の原因でもあり結果にもなりうる疾患である。心房細動における抗凝固療法はワーファリンかDOACを選択するが、DOACはワーファリンと比較し効果は同等以上で出

血はワーファリンより少ないとされ、当院でもDOACを中心とした治療に変化してきている。また心不全患者のポリファーマシーは非常に重要な課題であり、当院でも10剤以上

服用されている患者が約6割存在するため、使用薬剤の必要性を確認した、可能な限り剤数を少なくし飲みやすい剤型に変更するなどして調整する必要がある。



抗凝固療法の神話と真実

横浜市立大学附属病院 循環器内科

教授 石川利之

■ワルファリンのモニタリングはメリットか？

プロトロンビン時間－国際標準比 (PT-INR) によるモニタリングが可能なワルファリンの方がDirect Oral Anticoagulant (DOAC) より安全であるという根強い意見があった。しかし、患者個人で起こりうるイベントをPT-INRのコントロールによって回避することは必ずしも可能ではない。そこで、DOAC時代の抗凝固療法について考えてみたい。

■TTRにみるワルファリンの課題

PT-INRの至適範囲内時間 (TTR；至適範囲内にあった期間の割合) を70%超に管理できれば、ワルファリン非投与より脳卒中を抑制できる一方で、TTR40%以下となった場合の脳卒中発現率は、ワルファリン非投与より高まることが示されている¹⁾。しかし、6割程度に維持できればまずまずというのが現実である。一方、それ以上に管理したところでイベント発現率は大きくは変わらない²⁾。

■PT-INRの誤差は±15%

PT-INRは、ワルファリンによって合成が阻害される第Ⅶ、Ⅸ、Ⅹ、Ⅱ因子のなかでも、半減期がもっとも短い第Ⅶ因子の活性を強く反映する。試薬としては第Ⅶ因子を活性化す

る組織トロンボプラスチンとCa²⁺が用いられている。しかしこの組織トロンボプラスチンは、その由来(ヒトかウサギかなど)や、メーカー、ロットによって測定値にばらつきがある。そのため試薬ごとに表示されている「国際感受性指標」を係数とした補正を行うが、とくに動物由来の試薬では、その補正にも限界があるといわれている。また、米国臨床検査標準委員会は、PT-INRの誤差許容範囲を±15%としている。つまり、PT-INRが2の場合の誤差範囲は1.7-2.3ということである。PT-INR値を過信することは危険である。

■ワルファリンの「弱めのコントロール」はむしろリスクを伴う

出血に対する危惧から、PT-INRの「弱めのコントロール」が行われてきた。しかしこれは、非投与時よりも脳卒中リスクを増大させる可能性がある。凝固系には「アクセル」と「ブレーキ(ビタミンK依存性のプロテインCやSが介在)」が存在し、ワルファリンはその双方を抑制する。アクセルの機能を落とせば、ブレーキが利かなくても、凝固系が過度に亢進することはない。しかし、「弱めのコントロール」を行うと、アクセルは機能したままブレーキだけが利かない状況に陥る。

実際に、ワルファリン投与開始3日後における脳梗塞発現率は、投与前の2.33倍となることが報告されている³⁾。「弱めのコントロール」は、このような凝固能亢進の状態を、あえて作り出しているようなものである。

■DOACのモニタリングは有用か？

DOACはモニタリングが不要とされ、実際に、モニタリングを行ったワルファリン群よりも有用であるとしたメタ解析も報告されている⁴⁾。DOACのモニタリングには測定ポイントの問題がある。測定ポイントによりDOACの血中濃度は大きく異なるが、出血はDOACの血中濃度のピーク値が高いことよりトラフ値が高いことに関連するというデータがある⁵⁾。モニタリングマーカーを測定するタイミングが重要である上に、カットオフ値が全く明らかではない。このような検査値をもとに、治療の意思決定を行うのは適切ではない。DOACのモニタリングによりイベントが抑制されるというエビデンスはない。

■minor bleeding の安易な解釈はDOACのunderuseを招く

もう1つ問題なのはminor bleedingがmajor bleedingの予測因子になっていないという事実である。minor bleedingがmajor bleedingに先行して起こる訳ではなく、むしろmajor bleedingは、minor bleedingとは無関係に発現することが報告されている⁶⁾。Minor bleedingによりDOACを減量、中止すべきではない。Minorな出血やモニタリングによりDOACが不必要に中止されたり、減量されたりすると、その結果、血栓塞栓症が増加することになる。

■PT-INRではイベントを予測できない

J-RHYTMRegistry参加者の出血イベント発現率は、PT-INR高値(2.6以上)で増加しているが、低値(1.6未満)の方が、1.6-2.6の方より出血が大幅に少なかったかといえ、

そうではない⁷⁾。つまり、現実にはPT-INRのコントロールにより出血を回避することは困難である。我が国におけるワルファリン服用中における血栓塞栓症について調査した研究によると、イベント発現時のPT-INR平均値は1.41であり、ほとんどの症例が至適範囲下限を下回っていたが、イベント発現直前のPT-INRは平均2.11であった⁸⁾。PTINRではイベントを予測できなかったことになる。ワルファリンで良好にコントロールできていた症例であってもDOACへの切り替えを考慮すべきであると考えられる。

■病診連携の問題

ワルファリンが処方されると、逆紹介しても開業医の先生に受け入れて頂けないことがしばしばあった。予防医学において、利便性とは、有効性や安全性に並ぶ重要な要素である。利便性の欠如は、治療実施を妨げ、結果として脳卒中を増やすことにつながる。DOACは病診連携におけるスムーズな移行も可能にする。

文献

- 1) Morgan CL, et al. Thromb Res. 2009; 124: 37-41.
- 2) White HD, et al. Arch Intern Med. 2007; 167: 239-45.
- 3) Azoulay L, et al. Eur Heart J. 2014; 35: 1881-7.
- 4) Ruff CT, et al. Lancet. 2014; 383: 955-62.
- 5) Weitz JI, et al. Thromb Haemost. 2010; 104: 633-41.
- 6) Hori M, et al. J Cardiol. 2016; 68: 523-8.
- 7) Inoue H, et al. Circ J. 2013; 77: 2264-70.
- 8) Inoue H, et al. Circ J. 2006; 70: 651-6.

第70回広島医学会北部支部大会・ 合同カンファレンス



三次地区医療センター
病院長 安 信 祐 治

2019年11月7日に、広島大学大学院 医系科学研究科 循環器内科学 木原康樹教授を講師にお招きして、第70回広島医学会北部支部大会及び令和元年度三次地区医師会・庄原市医師会・市立三次中央病院・安芸高田市医師会・庄原赤十字病院 合同カンファレンスが開催された。



庄原市医師会 林会長の開会挨拶



三次地区医師会 鳴戸会長の挨拶



座長 安信祐治先生

木原先生は平成20年広島大学循環器内科学教室の初代教授として赴任され、広島の循環器内科を牽引してこられた。特に、今後も増加が見込まれる心不全に対して精力的に取り組んでこられ、講演ではこれまで行ってきた対策と今後の課題について語って頂いた。

以下に、講演の要約をまとめる。

高齢者の増加に伴い、高齢心不全患者さんの大幅な増加（心不全パンデミック）が予想され、平成24年に広島大学病院内に心不全センターを設立した。患者さんの心臓病の再発や重症化の予防を目的とし、その後、県内7つの二次医療圏に1カ所ずつ心臓いきいきセンターを指定した。さらに、平成29年度から心臓いきいき在宅支援施設認定事業を行い、

2年間で331の施設認定を行った。

心不全センターの役割は、急性期の心臓病治療は充実している反面、心不全に至った患者に対して提供されるべき包括的心臓リハビリテーションが不十分であったことから、これを行うに足る機器の設置や人材育成であった。特に心不全認定看護師や心臓リハビリテーション指導士の育成に力を入れ、多職種から構成される心不全チームを院内に結成し治療の要とした。心不全患者のQOLを維持していくためには、退院されてからの生活習慣の改善が重要となり、そのためには医師のみではなく、多職種がその専門性を活かして患者情報を収集、共有していくことが求められる。広島大学病院では心不全センター設立後に、電子カルテにワンクリックで多職種が介入できる仕組みを導入した。導入前後で在院日数に有意な減少が見られ、重症患者で48日から15日、中等度患者で31日から10日、軽症患者で30日から8日へと減少させることができた。

この多職種による院内心不全チームを地域に広げるため、心臓いきいき在宅支援施設の認定事業を計画した。診療所、訪問看護ステーション、薬局など、心臓を専門とされていない職種の方々においても、心不全センターに紐付けされ、少しずつでも情報共有、連携がとれる体制を目指している。心不全治療においては、この急性期から回復期、慢性期への、言わば垂直連携の重要性がますます高まってきており、皆様方の協力をお願いしたいと思っている。

また、この連携に欠かせないものが心不全手帳で、地対協の協力でこれまでに3万冊を発行した。患者さん自身が体重や血圧、体調を記入し、自己管理ツールとして使用してもらうとともに、関連スタッフにこれを見てもらい、記入してもらうことで情報共有のツールとしても利用できるようになっている。未発表であるが、広島県レジストリー研究では、再入院予防因子として「心不全手帳をしっかりと利用されている」項目が多変量解析で残っ



講師 木原康樹先生

てきている。

さらに、紙媒体を超えて、情報を個人に集約していくシステムが今後必要となってくる。例えば、乳児検診、学童検診、母子手帳、社会保険、国民保険、介護保険といった人生の節目での情報はすぐには利用できないが、これができるようになれば重篤な疾患への罹病が防げるかもしれない。広島大学では人工知能を利用し、レセプト情報を解析し、重篤化を予測できる未来予測システムの開発に当たっている。広島のサンドボックス事業(作っては馴らし、みんなが集まって砂場のように試行錯誤ができるような共創で何でもできるオープンな実証実験の場)の1つとして、企業とともに「みらい健幸アプリ」を開発した。住民がアプリをダウンロードして、スマホで簡単に、生活習慣病の重篤化を未然に防ぐこ

とができるようになる。高齢化、過疎といった地域で特に関心が強く、安芸太田町、東広島市、福山市と契約を結び、展開していく準備を進めている。

広島県の多大なご協力を頂いて、心不全いきいき推進事業を行ってきたが、重複疾患を抱えた患者さんを診ていかなければならないことから、心臓を専門とされていない先生方に教えを請いながら、今後も事業を展開していきたいのでご協力をお願いしたい。

最後に2019年日本心不全学会を広島で開催し、成功裏に終えることができたが、宿題もたくさん頂いた。2020年には日本心臓病学会を開催する予定であり、この宿題に回答するべく準備を進めているので、ご支援をお願いしたいと講演を締めくくられた。



講演会の様子

第70回広島医学会北部支部大会及び 令和元年度三次地区医師会・庄原市 医師会・安芸高田市医師会 市立三次中央病院・庄原赤十字病院 合同カンファレンス&懇親会の報告

市立三次中央病院 副院長
地域医療連携室室長



立本直邦

令和元年11月7日(木)、グランラセーレ三次(平安閣)において、『第70回広島医学会北部支部大会及び令和元年度三次地区医師会・庄原市医師会・安芸高田市医師会・市立三次中央病院・庄原赤十字病院 合同カンファレンス』として「講演会」、引き続いて「懇親会」が開催されました。

私からは「懇親会」について報告させていただきます。

カンファレンス後の懇親会も回を重ねること16回目となりました。まず、安芸高田市医師会会長・徳永 彰先生の開会挨拶、続いて、西城市民病院病院長の郷力和明先生の乾杯のご発声で会がスタートいたしました。

例年(=2-3月開催)より早い時期での開催となりましたが、いつも通り、ご出席いただけた全ての先生がたから一言ずつ、自己紹介を兼ねてお言葉をいただきました。顔と顔のわかった間での連携が重要と考えるに他なりません。また各病院側から、前回の合同カンファレンス以降に赴任した新しい顔ぶれの医師の自己紹介・アピールから報告の挨拶をさせていただきました。また、各診療科からもチーム紹介をしてもらいました。終始和やかな、うち解けた賑やかな懇親会となりま

した。最後に、当院・永澤 昌病院長の挨拶でお開きとなりました。

医師会=かかりつけ医の先生方との連携を密に取ることが、今後も地域の皆さまの健康を守ることに多大な役割を果たしていることに変わりはないと思います。引き続きご意見ご要望等はいつでもお気軽にお申し付けいただければ幸いです。紙面を借りまして改めてよろしく願いいたします。

最後に、今回のイベントの開催にたいへんご尽力いただきました、三次地区医師会・庄原市医師会・安芸高田市医師会・市立三次中央病院の事務部門の皆様には深謝申し上げます。ただ、長年利用させていただきましたグランラセーレ三次(平安閣)の閉館に伴い、来年度以降は会場の関係でこの会をどのようにしていくか知恵をしばって参りたいと思います。引き続き何卒よろしく願いいたします。



安芸高田市医師会 徳永先生の懇親会挨拶



庄原市医師会 郷力先生の乾杯のご発声

三次地区医師会・事業所忘年会

三次地区医療センター 松井希乃

令和1年12月12日、グランラセーレ三次平安閣にて、三次地区医師会・事業所忘年会が行われました。医師会長 鳴戸先生をはじめ、医師会諸先生方、医療センター、介護老人保健施設 あさぎり、臨床検査センター、訪問看護ステーション スクラム、居宅介護支援事業所、その他各施設のスタッフの皆様方のご出席により、一年の締めくくりに対応しい盛大な忘年会となりました。グランラセーレでの忘年会・歓送迎会も恒例となっておりますが、来年度からは場所を移しての開催となると思うと感慨深いものがあります。

会は三次地区医師会 会長 鳴戸謙嗣先生の

開会挨拶に始まり、市立三次中央病院 病院長 永澤昌先生のご挨拶、医師会 副会長 中西敏夫先生の乾杯のご発声、歓談に続き、恒例の出し物へと進行しました。(安信先生扮する)サンタと愉快的仲間たちによる3年A組朝礼体操に笑い、医事課職員2名によるユニット「かぼす」の歌う『栄光の架橋』(アコースティックギター生演奏付き)に感動し、医療センター2階病棟一堂によるダンス「パブリカ」に癒されました。その後も、カラオケの出し物、ビンゴゲームと続き、とても楽しく、あっという間の2時間でした。最後は医師会副会長 重信和也先生の閉会宣言でお開きと



鳴戸会長の開会挨拶



永澤病院長のご挨拶

なりました。

今年も素晴らしい忘年会となり、企画進行を行っていただきました親睦会執行部の皆様
に感謝いたします。個人的には、ビンゴゲームで当たった猫柄の珪藻土バスマットがサン
タクロースからのプレゼントのような気がし
て、日々癒されています。ありがとうございました。

この一年も、多くの先生方、スタッフの方々
にお世話になりました。私たちの日々の診療
も皆様の支えがあってこそと改めて実感して
おります。ご迷惑をおかけすることも多いか
と思われませんが、引き続きのご指導ご鞭撻
の程よろしく願いたします。



重信副会長の閉会挨拶



医師会職員2名のユニット「かぼす」



サンタと愉快的な仲間たち



医療センター2階病棟職員によるダンス「パブリカ」

十日市医会 忘年会



備北眼科 栗本清伸

令和元年12月13日(金)、割烹料理店 森新に於いて、恒例の十日市医会忘年会が会員22名中、11名の参加で行われました。今年の幹事は、鳴戸先生と私が務めました。

会計報告の後、鳴戸先生の幹事挨拶、瀬山先生の乾杯のご発声の後、ふぐ料理とヒレ酒で談笑し、懇親を深めました。

恒例の今年1年を振り返ってでは、院外処方に関し、調剤薬局と医者との関係の話、84cmのサワラを釣った話、ワインの会の話、ゴルフの話、霧の海をもっと活用できないかとの話が出ました。

ふぐ鍋の湯気の向こうに、三次の将来、日本の将来、来年の抱負などを語らい、夜は深けていきました。

宴も一段落し、鳴戸先生のシメの挨拶を頂き、閉会となりました。

来年も元気で語らしましょう。



三次医会 忘年会



箕岡康明

昨年末から年始にかけては例年になく雪も降らず、気温も暖かい日が続いています。これだけ雪が降らないシーズンは、私が三次に戻ってきてからは、はじめてではないかと思えます。やはり、気候変動が進行によるものかもしれません。

さて、2年ぶりに三次医会の忘年会を、いつもお世話になっている富久鮎で行いました。

今年は河野先生の都合が合わず、谷岡先生、小川先生、安藤先生、中村先生、佐々木先生、佐古先生、私の7名の出席となりました。

小川先生の乾杯の音頭で会は始まり、ふく刺しをほおぼりながら谷岡先生から三次医会の成り立ちについてお話をいただきました。小川先生のお父様が中心になり発足したとのことでした。

最近では、なかなか三次医会の先生方がほぼ全員集まったの食事等はなく、忘年会だけとなっているので、おいしい食事に舌鼓を打ちながら、ひれ酒の酔いも手伝って、各々の先生方

と和気あいあいといろいろな話題で話がはずみ、楽しい時間を過ごしました。

令和元年はラグビー日本代表の活躍などの明るい話題がありましたが、自然災害による多くの被害があった年でした。2020年は診療報酬改定があり、夏には楽しみにしている東京オリンピック・パラリンピック競技大会が開催されます。

しかし、正月明け早々、米国によるイラン司令官攻撃という衝撃的なニュースから始まりイランが米国駐留基地に報復攻撃を行ったと暗いニュースも報じられています。

戦争だけは起こらないよう願うばかりです。



東雲会旅行記

高 場 敦 久

今回の東雲会の旅行は、鹿児島県に行くことになりました。2011年に九州新幹線が全線開通し、以来、広島駅から鹿児島中央駅までの所要時間が約2時間半となりました。以前は博多駅から在来線を利用しなければならず、遠い印象がありましたが、鹿児島がとても身近に感じられるようになりました。

さて、旅行前から大型の台風17号(TAPAH)が西日本に接近しており、大変なニュースとなっておりました。旅行当日の朝、バスで出発したときはちょうど九州東部の海を北上しており、新幹線の運行すら危ぶまれておりました。しかし、広島駅に到着すると、幸い、新幹線は通常通りで運行されていました。途中、熊本付近で台風に最接近しましたが、雨・風ともに大したことはなく、遅延も発生せず無事に鹿児島中央駅に着くことが出来ました。迎えられた車に乗り込み、最初の目的地である仙巖園に向かいます。運転手の方に西郷隆盛像、鶴丸城跡などの説明を受けながら車窓観光をしていると、錦江湾沿いにある仙巖園に到着しました。車から降りると、海沿いのためか、傘もなかなか差せないような強い風を受けました。すぐに観光はせず、そのまま庭園内にあるレストラン松風軒で昼食

(薩摩彩郷御膳)をとりました。少し小高い場所にあり、広い店内からガラス越しに見えるパノラマは悪天候の中でも開放感があり良かったです。桜島も見えました。目の前に広がる錦江湾は波立った際の白い泡が幾重も見え、風がとても強いことがうかがえました。しかし、その湾内でセーリングをしている人が何人もいたことには驚かされました。(大丈夫なのでしょうか…。)

食後は風と雨が強かったため、ざっくりと庭園をめぐりました。この仙巖園は1658年に、島津家19代光久によって築かれた島津家別邸です。桜島を築山、錦江湾を池に見立てた1万5000坪の広大な大名庭園で、迎賓館としての役割も果たしていました。この中には、28代島津斉彬が尽力した集成館事業の遺産があります。斉彬は藩政刷新と近代化を推進し、自ら率先して軍備の強化・西洋化を図る一方、殖産興業を目指し奔走しています。なかでも自身の発案・設立による、大砲、地雷や水雷といった武器弾薬の製造、洋式造船、反射炉やガス灯の実験、紡績などを含む集成館事業は、日本初の洋式産業群として後世まで高く評価されており、斉彬の先見の明を示す象徴となっています。また、今回訪れた尚古集成

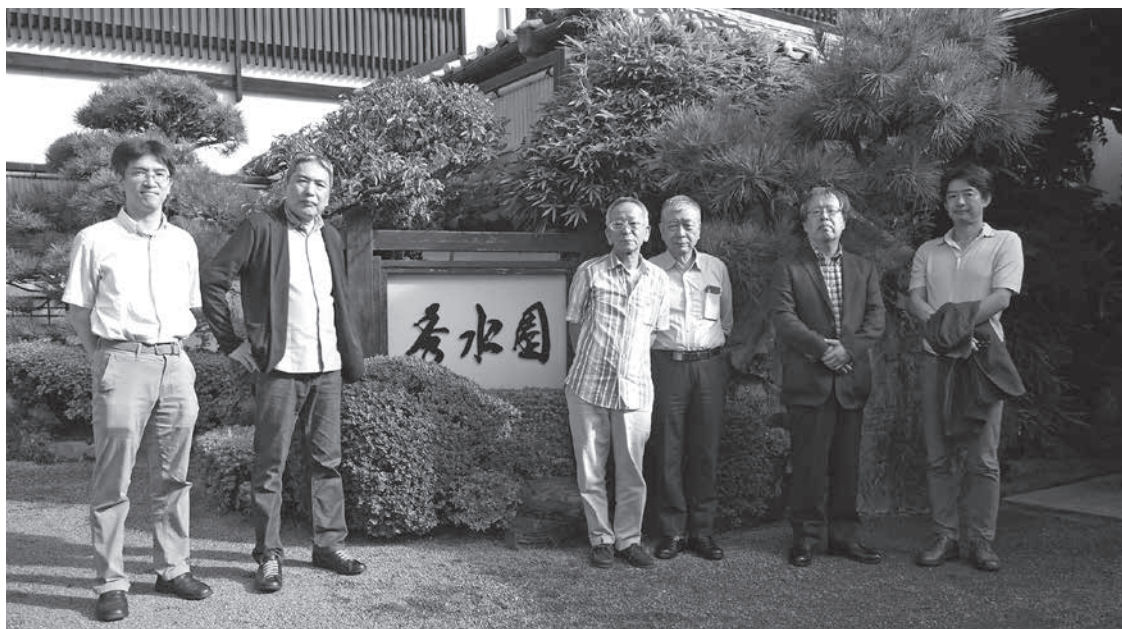
館は、薩英戦争(1863)の復興事業のひとつとして、12代藩主忠義が完成させた、石壁と木材を組み合わせ造られた現存している日本最古の洋式工場である機械工場を博物館として利用している施設です。

一通り巡った後、車で約1時間20分、指宿市にある池田湖へ向かいました。池田湖は薩摩半島南東部に位置し、周囲約15kmの円形カルデラ湖で、九州最大の湖です。到着すると巨大水棲生物であるイッシー像が建てられており、以前、話題となったことを思い出しました。現在は巨大ウナギ説が有力だそうです。風が強く、ここでも湖面の波が印象的でした。近くのおみやげ屋では巨大ウナギが飼育されておりました。そのウナギは、食用のウナギとは比べ物にならない程大きく、イッシーと見間違われたことが理解できました。

一行は池田湖に沿って南下し、長崎鼻を目指します。海岸線に突き当たったところで海を見るとものすごい波が打ち寄せていました。これまで見ていた錦江湾内の内海と比べ、外海は荒々しさが違っておりました。目的地である長崎鼻の灯台が遠くに見えましたが、

波しぶきが立っており、とても危険なためあきらめました。長崎鼻は薩摩半島最南端にある岬で、西方に海越しに開聞岳がそびえており、妨げるものが何もないため、非常に美しい眺めが堪能できたはずでした。残念ですが、引き返しました。しかし、外海の荒波を間近で見ることができ、自然の激しさを感じることができました。

本日の行程はこれで終了し、宿泊先である「いぶすき秀水園」へ向かいました。この旅館は、焼酎製造会社をしていた経営者が別荘を改築して出来たのが始まりだそうです。その後、増改築を繰り返し、料理の美味しい上質な旅館として現在に至ります。夕方、5時前ごろに宿に到着しました。旅館スタッフの情報によると、台風のため営業を見合わせていた砂むし会館「砂楽」が、風が弱まったため17時から営業を再開されるとのこと。早速、浴衣に着替えて向かいました。指宿温泉は世界でただ一つの砂むし温泉として有名で、与謝野晶子も「しら波の下に熱沙の隠さるる不思議に逢へり指宿に来て」と詠っています。海岸に降りてみると、波も穏やかになってお



り、安心して楽しめました。指定された砂の上に仰向けに。蒸した砂を全身にかけてもらうと、ずっしりと体に重みと温かみが伝わってきました。すぐに手足が温まり、ドクドクと脈の拍動が感じられました。入浴時間の目安は約10分でしたが、砂から出た時は全身にじっとりと汗をかいていました。夕食は地元食材を中心とした献立でした。焼酎に合うような味付けで、特に薩摩黒豚やわらか煮と指宿の焼酎・利右衛門の相性は抜群でした。

翌日。前日とは対照的に、快晴で、抜群の旅日和となりました。最初の目的地は知覧でしたが、運転手さんの計らいでせびら自然公園に向かいました。ここは、長崎鼻の反対側から開聞岳を眺めることができる海岸沿いのスポットで、雄大な開聞岳と青々とした海の眺望が最高でした。その後、車は知覧へ。道中は窓から風景を眺めながらの移動です。広々とした畑がたくさんありますが、ほとんどがさつまいも畑か茶畑でした。運転手さんによると、知覧茶が有名で、さつまいもはほとんど焼酎用とのこと。田んぼもちらほら見かけましたが、植えられているイネは三次とは違い、風で倒れてもすぐに起き上がる品種であるとのことでした。

知覧では、まず、武家屋敷を巡りました。江戸時代、薩摩藩は領地を外城と呼ばれる113の地区に分け、地頭や領主の御飯屋を中心に麗と呼ばれる武家集落を作り、鹿児島に武士団を集結させることなく分散して当地に当たらせました。知覧もその外城の一つでした。知覧麗の武家屋敷群は、石垣で屋敷が区切られており、その地区内の7つの庭園を巡りました。知覧の港が江戸時代に琉球貿易の拠点だったようで、琉球の影響を多く受けた作りとなっていました。7つの庭園の内、6つは枯山水式で、1つが池泉式の庭園です。

どの庭園も手入れが行き届いており、素晴らしい庭園でした。中でも、佐多直忠庭園は、母ヶ岳を借景とし、一隅に石で組まれた築山を設け、中心部は立石と枯滝の石組が絶妙な構成となっており、ひと際目立っていました。

一行は次の目的地である知覧特攻平和会館に。道中、隊員たちが通ったというトメさんの食堂や家族との最後の別れを行った宿舎などを案内してもらいました。知覧特攻平和会館の周辺は住宅街となっており、当時の飛行場は残っていないそうです。知覧ではもともと、昭和16年に大刀洗陸軍飛行学校知覧分校が開校され、少年飛行兵の特別操縦見習士官らが操縦訓練を行っていた場所でした。しかし、ミッドウェー海域での敗北以降、戦局が切迫したため、沖縄に最も近い、この知覧の飛行場が最前線陸軍特攻基地となりました。その後、20歳前後の若い隊員達が日本各地から集結しては、家族・国の将来を思いながら出撃しました。その特攻隊員の真の姿・遺品、記録などの様々な資料が展示されており、戦争のむなしさ、平和の大切さ・ありがたさ、命の尊さなど様々な感情が胸に入り混じってきます。

平和会館を出て、行程通り、鹿児島市内に戻ります。市内に近づくと徐々に桜島が見えてきました。桜島を眺めると上半分は岩肌が露出して、もくもくと噴煙が上がっていました。

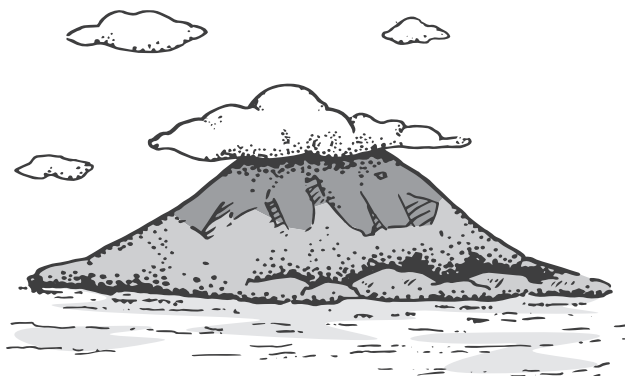
昼食は奄美の里というところで鶏飯料理をいただきました。奄美大島の代表的な郷土料理で、江戸時代に薩摩の役人をもてなすために用いられたこともあり、別名「殿様料理」とも呼ばれているそうです。米飯、具材、薬味、スープが別々の器で出され、自分で好きな配分で盛り付け、混ぜながら食べます。鶏の出汁が効いており、とてもおいしくいただきました。

その後は、天文館の商店街の一角にある、コセド酒店に。壁一面にたくさんの焼酎が並んでおり、圧巻です。その後は自由時間に、「薩摩蒸気屋」でおみやげを購入しました。

少し早く鹿児島中央駅に着いたので、待ち時間を利用して駅建物の屋上にある観覧車「アミュラン」に乗りました。改めて鹿児島の市街、桜島、錦江湾が一望でき気持ちよかつ

たです。

新幹線で広島駅に着いた後は、新しくできたエキエバル内の「鯨 広島 あじろや」で夕食をとり、三次まで送迎バスで帰りました。平年より半日長い日程でしたが、密度の濃い楽しい旅行となりました。ありがとうございました。



第33回三次地区 医師ゴルフ大会報告



ひさゆき耳鼻咽喉科アレルギー科 久行 敦士

2019年11月17日に開催されました第33回三次地区医師会ゴルフ大会に参加させていただきました。

ゴルフは医師の駆け出しのころ少しかじっただけでしたが、ちょうど約1年前の2018年11月ごろから練習を開始しておりました。何度か練習ラウンドを経験したところでしたが、コンペの緊張感にも早めに触れてみたいと考え、このたび思い切って本大会に飛び込ませていただきました。

会場は格調高い名コースとお聞きしていた庄原カントリークラブでした。

天気は極めて良好で、気温もほのかに肌寒い程度でとても快適にプレイすることができました。また、素晴らしい紅葉を伴った大変美しい景観を楽しむことができました。

今回私は山田先生、岸先生、立本先生と同じ組でラウンドさせていただきました。

自分のプレイについてですが、このたびの課題にしていたアプローチにおけるトップやダフリといった明らかなミスが減らすことはまずまず達成できたと考えますが、その他のショットを叩きまくり、記載のスコアのおりですがまだまだ課題が多いと痛感した次第でした。

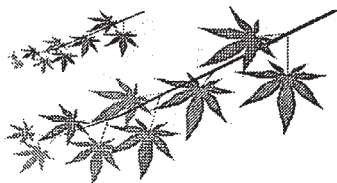
しかし先輩先生方は大変暖かく見守ってくださり、楽しくラウンドさせていただきました。また、先生方のすばらしいプレイを目の当たりにすることができましたので、目標としてこれから少しでも近づいていきたいと決意を新たにしました次第でした。

次回の大会は本年4月に開催予定とのことです。ぜひ参加させていただき少しでも良いスコアが出せるよう練習していこうと思います。次回の目標は、フォームの根本を構築し直すことと、メンタルを落ち着かせて伸び伸びとスイングできるようになることでしょうか。また北備医師同好会にも並行して入会させていただき、皆様と一緒にゴルフを楽しんでいきたいと考えておりますのでどうぞよろしくお願いたします。



(第33回)三次地区医師ゴルフ大会結果報告

令和元年11月17日



(於) 庄原カントリークラブ

競技方法 : W.A.L.J

使用ティー : ホワイトティー ゴールド

天候 : 晴れ

HDCP上限(男性) : 36.0 HDCP上限(女性) : 36.0

出しホール

OUT	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	IN	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰	⑱
-----	---	---	---	---	---	---	---	---	---	----	---	---	---	---	---	---	---	---	---

☆順位の同NETは年長者・大波、小波、鷺鷥はNET上位とする。

順位・賞	病医院名	競技者名	生年月日	OUTコース	INコース	GROSS	HDCP	NET	アトラクション
優勝	西城市民病院 外科	武田 晋平	S.33.09.20	36	44	80	6.0	74.0	
準優勝	山田整形外科	山田 博隆	S.22.02.17	42	44	86	10.8	75.2	小波賞
3位	鳴戸医院 内科外科	鳴戸 謙嗣	S.24.07.27	47	45	92	16.8	75.2	
4位	岸 医院 外科,内科	岸 直彦	S.30.03.25	45	44	89	13.2	75.8	
5位	三次中央病院 外科	立本 直邦	S.35.04.19	47	46	93	16.8	76.2	NP賞:13H
6位	いとう内科 クリニック	伊藤 雅啓	S.40.07.22	38	43	81	4.8	76.2	NP賞:17H・DC賞:11H
7位	すざわ小児科	須澤 利文	S.26.02.07	41	51	92	14.4	77.6	大波賞
8位	佐々木医院 内科	佐々木 智	S.42.07.26	55	57	112	33.6	78.4	
9位	三次中央病院 産婦人科	藤本 英夫	S.36.09.09	50	48	98	19.2	78.8	NP賞:6H
10位	堀川レディースクリニック 婦人科	堀川 正城	S.19.08.13	56	62	118	36.0	82.0	
11位 (当月賞)	三次中央病院 口腔外科	津島 康司	S.62.07.29	46	48	94	10.8	83.2	NP賞:3H・DC賞:16H
BB賞	ひさゆき耳鼻 咽喉科	久行 敦士	S.48.05.03	73	68	141	36.0	105.0	
ホテル賞	三次中央病院 産婦人科	小西 晴人	S.61.08.14	69	75	144	16.8	127.2	

第34回開催は、ミーティングの際、下記の通り予定

令和2年4月(日程は、後日連絡させて頂きます) : 北備医師同好会との合同開催

開催場所 : 庄原カントリークラブ(予定)

幹事

山田博隆

立本直邦

皆様、万障お繰り合わせの上、多数御参加下さい。

第29回三次地区医師会 釣り同好会 鯛五目つり大会に参加して



市立三次中央病院 耳鼻咽喉科 鮫島克佳

釣行日 令和元年11月24日(日) 出港時間 6:30
満潮 7:11 干潮 13:09

11月24日、三次地区医師会釣り同好会主催の釣り大会に参加させていただいた。参加者は佐竹先生、重信先生、須澤先生、星田先生、松尾先生、市立三次中央病院からは前回に引き続き私の他、歯科の津島先生と看護師の土井さん3名が参加した。外科OBの内藤先生も息子さんお二人とともにご参加いただいた。出港場所は山口県大島港。例によって私は前日に移動し、車内でぎりぎりまで睡眠を確保した。

全員が集合し、船頭さんに挨拶をして乗船し、移動の間に仕掛けを準備する。釣り場は大島大橋周辺の大島瀬戸。胴付き仕掛けに餌は生きた海エビを使用した。

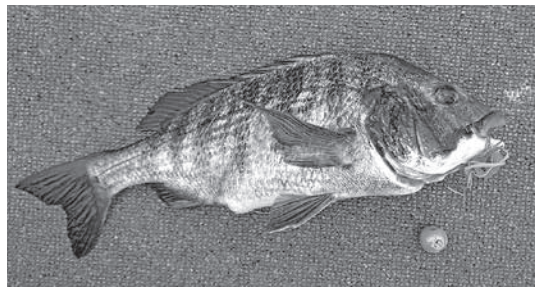
仕掛けを投入し着底させ、1mから2mほど巻き上げてアタリを待つ。竿先に小さな反応があるがまだ我慢である。魚がエビをついているだけでは合わせても針がかからない。エサを完全に啜えて竿先が引き込まれたタイミングで合わせ、逃がさないようにゆっくりと、魚の引きを楽しみながら巻き上げていく。25cm程度の鯛が多かったが、時折30cm以上のものも釣れていた。内藤先生の息子さ

んたちは自作の仕掛けで50cm以上の鯛を釣り上げていた。私は途中から釣り方をタイラバに変更してみたところ、真鯛ではなくチヌが釣れた。真鯛、チヌの他はチダイ、マゴチ、ヤズ、トラギス、カサゴが釣れていた。

帰港後魚をクーラーボックスに移す。余ったエサの海エビは袋に入れて大量に持ち帰るのだが、これが非常に美味しい。贅沢に使ってかき揚げにすると絶品なので、実は魚より楽しみだったりもする。

昼食を食べながらの懇親会を行い、記念撮影を行って帰路についた。

今回は多くの開業医の先生にご参加いただき、共通の趣味を介して親交を深める良い会であった。また来年の初夏、アジ釣り大会が楽しみである。





三次地区医師会 釣り同好会 鯛釣り報告 (令和元年11月24日)



松尾整形外科リハビリクリニック 松尾 洋一郎

令和元年11月24日に山口県大島瀬戸に、鯛釣りに行った時の事を報告させていただきます。今回の参加メンバーは医師会の星田先生、須澤先生、佐竹先生、重信先生、私の他、三次中央病院からは耳鼻咽喉科の鮫島先生、歯科口腔外科の津島先生と看護師の土居さんと三次中央病院外科に以前勤務されていた内藤先生とその息子さんである中3の大智君と小1の祐介君が参加されました。

11月24日、朝6時半に山口県大島港出航であったため、三次を朝3時50分に出発しました。天気予報では1週間前から当日は雨だという予報でした。しかし、朝6時半に3艘の船に分かれて出航してから13時前に帰港するまで、途中、小雨が降る程度であり、釣りに集中することが出来ました。私は須澤先生、内藤先生と大智君、祐介君と一緒に乗船させて頂きました。

予報の雨が大丈夫であり、漁場につき、さあ、大鯛を釣ってやるぞと、意気込んでいた矢先でした。PEラインを数年間さぼって巻き替えていなかったのが祟ったのか、釣り開始早々から3回連続でPEラインが切れ、船頭さんに「もう、仕掛けもないよ、最後だよ」と言われ、呆れられました。想定外の事で、

今までこんなことになった事はなく、仕掛けも持参していなかったため、今回は、その最後の仕掛けを最後まで持たせないといかんといい余計なプレッシャーの中での“とほほ”な釣りでした。やはり、仕掛けも船頭さんまかせにせず、自分で準備し、道具についても手入れをしておかなければならないと反省しました。

片や、前々回も大鯛を釣られた内藤先生並びに息子さん達は違いました。以前から色々な釣りをされており、自作の仕掛けをもってこられ、また、エビの選び方だけでなく、後で聞いたのですが、エビの針へのつけ方も一工夫されておりました。船頭さんから教わったのはしっぽを落として、しっぽからのちょんがけか、又は、エビの口から針を入れ、背中の脳みそが在る所の前方へ針先をちょっと出すやり方でした。脳みそに当たるとエビが死に、針が正中に真っ直ぐ刺さらないとエビが回転して釣れない等、慣れが必要です。(写真1、2)内藤先生は背中の堅い所に針をかけているそうです。今回も、60cmの大鯛を釣り上げられました。(写真3)流石です。また、息子さん達も、よく、色々な釣りに連れて行ってもらっているようで、鍛えられてお

り、小1の祐介君も見事な合わせで、30cm、40cm大の鯛を何匹も釣り(写真4)、また、中3のお兄ちゃんの大智君も何と、50cm、40cmの鯛をダブルでかけ、釣り上げました(写真5)。脱帽です。

鯛はもちろん、他にもコウイカやヤズ、マゴチやカワハギ、カサゴ、ウマヅラハギ、チヌ、ベラ、トラハゼといった魚も多数釣られ、五目以上となりました。(写真6、7、8)。

13時には皆様、大島港に帰港しました。いつものあなご井で有名な“米徳”は残念ながらなくなっておりましたが、代わりに大衆食堂“汐まち”に集合しておいしい食事とビール、お酒を皆で味わいました。話もはずみ、

楽しいひと時を過ごすことが出来ました(写真9)。

帰りの車の中で、重信先生から、この三次地区医師会釣り同好会は三次地区医師会の内科、外科系の先生方が、一同に集まって飲む機会を作ろうと1回/年ごつくばらんの会を始めた時に、皆で何かしようよということで始まった同好会だと伺いました。私にとっても、この同好会は三次地区医師会の先生だけでなく、三次中央病院の先生方とも交流を持てる、いい機会です。令和2年度も、又、鯉釣り、鯛釣りが企画されることと思います。皆様の参加をお待ちしております。

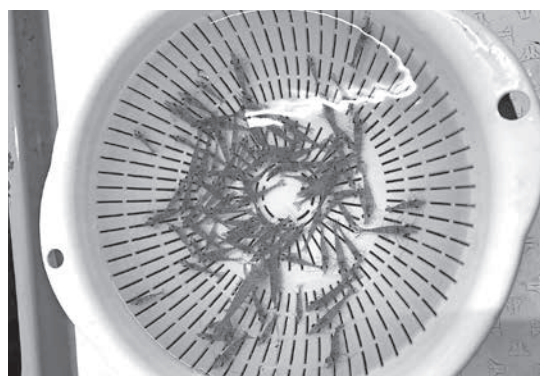


写真1 エビ



写真2 エビの針へのつけ方



写真3 内藤先生60cm大鯛



写真4 小1祐介君



写真5 中3大智君



写真6・7 内藤家、須澤先生、私、船頭さんの釣果の一部

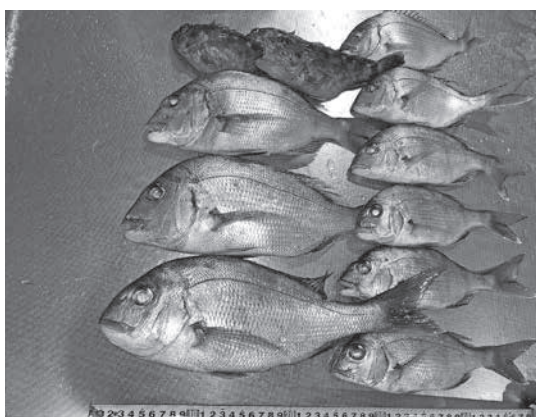


写真8 私の持ち帰り分、皆様からのおすそ分け含む



写真9 集合写真



外科医のメスに国境はない

～荒瀬秀俊 伝～ その3



荒瀬秀治 著

溝田忠人・溝田武人 編集

編集者補足 三次収容所のスケッチ

POW研究会の小宮まゆみさんの詳細な報告¹³⁾によると、三次収容所に抑留されていた、医師のヘリット・ファン・クーフェルデン氏は抑留当時、収容所の内外のスケッチを描いていた。そのスケッチのオリジナルはアムステルダムの「NIOD」(オランダ戦争資料研究所)にある。そして以下のような経緯で、現在三次図書館にそのコピーが公開されている。

2016年6月3日のこと、小宮さんはアムステルダムのNIODで行われたシンポジウムで「日本国内に抑留されたオランダ人民間人」というテーマで講演を行った。その聴衆の一人にヘリットさんの息子であるヤン・ファン・クーフェルデン氏が来ていた。ヤンさんは抑留されたオランダ人の名簿や父親が描いたオプテンノール号のカラースケッチや三次収容所内外のスケッチを、ハーグの公文書館から取り寄せて持参していた。

1938年生まれのヤンさんの一家はオランダ領のスマトラ北部に家族3名で住んでいた。父親のヘリットさんは医師であったが、1941年12月8日に日本との戦争が始まると、オランダ海軍に召集されオプテンノール号に乗り

組んだ。1942年2月28日には日本軍に拿捕されてオプテンノール号と共に日本に送られ、三次収容所に44名の仲間と共に収容された。一方ヤンさんとお母さんはスマトラ北部の民間人抑留所に収容された。1945年8月15日の終戦後、父親は9月12日に三次収容所を離れて、バタビア(ジャカルタのオランダ植民地名)に戻って来て海軍で勤務していた。別れて4年振りに母子は父親に再会したのである。その2年後一家はオランダに引き上げてきた。父親は1979年頃74歳で亡くなられ、母親は1996年に89歳で亡くなられた。

2016年8月末には父親が収容所生活をしている時期に画いた前述の素晴らしいスケッチのコピーなどを小宮さんに郵送された。一枚はカラーインクで描いたオプテンノール号であった。この時の10枚のスケッチを以下に示す。図 補足3a~iはヘリット・ファン・クーフェルデン氏による三次収容所のスケッチ。図 補足3jは、同じく同氏によるオプテンノール号のカラースケッチ。図 補足3kは2本煙突に改造される以前のオプテンノール号の写真である。

Myoshi, 1944

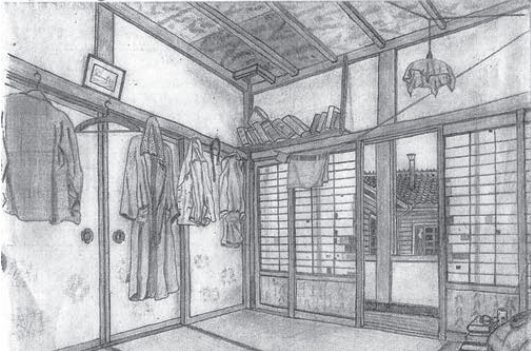


図 補足3a 三次収容所の室内の様子(1)

Myoshi, 1944

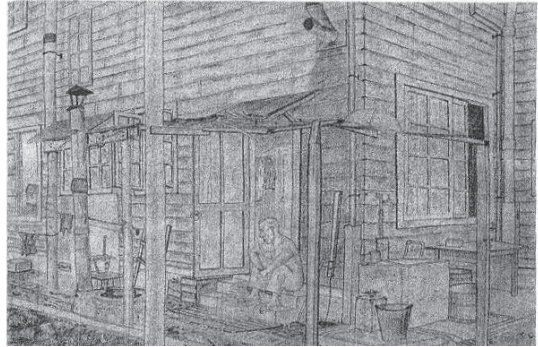


図 補足3d 戸外で孤独に耐えている様子か？

Myoshi, 1944

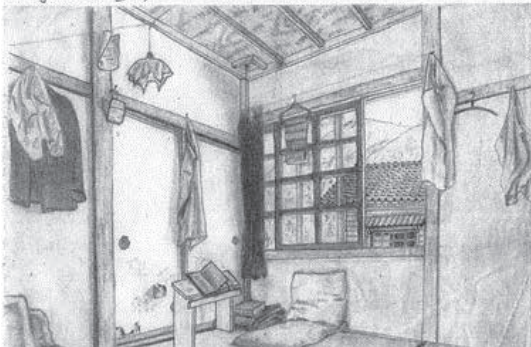


図 補足3b 三次収容所の室内の様子(2)

Myoshi, 1944



図 補足3e 収容所建物スケッチ(1)

Myoshi, Oct 1944



図 補足3c 三次収容所の室内の様子
娯楽室であろうか？

Myoshi, Nov 1944



図 補足3e 収容所建物スケッチ(2)
尾関山に入る三江線のトンネル部分が
画かれている。



図 補足3g 収容所建物スケッチ(3)
背景は寺戸山(てらどやま)別名は三勝山(さんしょうじやま)左の建屋屋根背景が比熊山



図 補足3h 収容所建物スケッチ(4)



図 補足3i 江の川にかかる祝橋のその手前の老舗料亭&旅館「環翠楼」
(スケッチは未完成で下半分は白紙である)

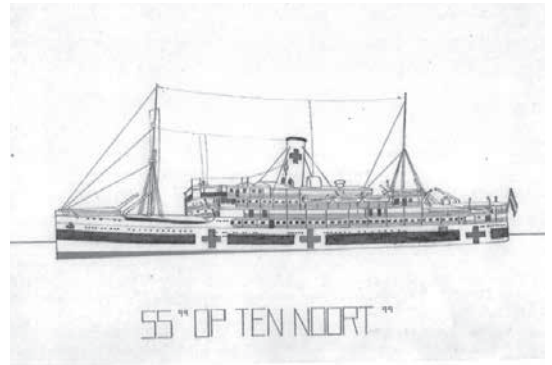


図 補足3j オプテンノール号のカラースケッチ



図 補足3k オプテンノール号の写真
2本煙突に改造される以前の写真

その後、小宮さんは、ヤンさん自身に三次を訪問して頂くべく、日本の外務省の招聘事業を紹介するなど手を尽くされた。ヤンさんは2016年の末には「息子と自費で日本に行く」と連絡して来たが、その後、健康上の理由で、来日できないという連絡があり、来日はかなわなかった。

そこで小宮さんはヤンさんの代わりに2017年5月31日～6月1日に三次を訪問し、米丸嘉一先生の案内で、三次図書館の有光七重館長にスケッチのコピーを届けた。館長からはスケッチを公開する約束を得ている。この時、荒瀬秀賢とも歓談している。これは2017年6月1日の中国新聞の記事¹¹⁾にされ、同じく6月24日の朝日新聞大阪版の夕刊記事²³⁾にもなっている。これが縁で、7月にはNHK福井支局から、製作中の番組、“病院船「オ

プテンノール号」の数奇な運命”に関連して、オランダのヤンさんに取材をしたいという依頼があった。小宮さんの仲介で、2017年8月5日にはアムステルダムに近いヤンさんの御自宅で3人のNHKスタッフによるインタビューがあった。9月1日になって取材を受ける元気そうなヤンさんをDVDで観たので感想をメールでヤンさんに送ったが、返事なかった。9月25日になってヤンさんの奥様のエキエ様から、ヤンさんが9月4日に心臓発作で亡くなったという悲しい連絡があった、ということなのである。

ここにもまた悲しいけれど不思議な偶然がある。オランダ側の当事者の一人、ヤンさんは父上の書かれた“スケッチ画”を三次収容所の近くの三次図書館に展示してもらうという希望が果たされることを見届けた後に、心臓発作でこの世を去っている。日本側では荒瀬秀俊の孫の荒瀬秀治が癌に侵されながら懸命に書き続けた“外科医のメスに国境はない”を我々に託し終えて、この世を去っているのである。

6. 荒瀬秀俊と荒瀬家の人々の思い出

以下に、荒瀬秀俊の甥である編集者の溝田忠人・武人兄弟の立場から記しておく。溝田兄弟からみて母方の伯父・荒瀬秀俊の家族は、妻喜代と2男1女(長男秀隆、次男敏博、長女貴子)で、伯父と子供たちは全て現在の三次高校の前身の三次中学および三次高女の出身であり、伯父と長男秀隆、次男敏博は東京医専(現東京医大)卒業の外科医である。また、孫の秀賢、秀治、貴子の長男澤裕幸とその長男澤宗寛も、東京医大卒である。

ここに 故 荒瀬敏博の文章²¹⁾を転載する。これは、1989年10月31日発行の「東京医大同窓会 広島県支部の歩」 131-134頁 に掲載されたもので、編集委員の一人には、荒瀬

秀賢も加わっている。この同窓会誌は、東京医大図書館に寄贈されたもので、荒瀬秀俊がスケッチしたラウベル解剖学教科書(巴杏167号参照)を探索する過程で東京医大図書館員の方がふと目にし、気になって中を読むと荒瀬敏博の一文が見つかった、というまるで故人達の引き合わせといえるような絶妙なタイミングであった。東京医大同窓会事務局には転載許可を戴いた。

6.1 親父、秀俊の思い出²¹⁾

昭和23年卒 荒瀬敏博

六月の中旬、金林先生より親父の思い出と題して何か書いてくださいとの電話があった。はい書きましようと言ってはみたものの、何から書いたら良いか困ってしまった。それ程父に関する話は多い。順序建てて書くのは難しいので、思いついたままを書くことにする。

今頃の季節になると、親父の血が騒ぎ虫が起きる。河漁、特に河川に恵まれた三次地方は魚が多く、鰻釣りは、名人芸であった。ハヤは浮子を見て釣るのであるが、我々が見たのでは解らない、動きを見逃すことなく釣り上げる。小生はハヤ釣りが好きでやってみたが、親父に遠く及ばず今日に至っている。それに鰻の穴釣りは、又名人の域に達していたように思う。鰻の釣鉤は自分の手製でない信用しない。自転車のスポークで作れ、麻糸をつけ出来上がり。それを自慢そうに見せるのである。それを褒めない機嫌が頗る悪い。その自慢の鉤を持って、お供を連れて毎日釣りに行く。小生も一緒に行き、色々教わったものである。そして段々と父の域に近づいて、小生が一尾でも多く釣ると機嫌が悪いのである。普通の親なら息子が多く釣れば、

よく釣ったと喜ぶものであると思う。然し父は何事でも息子に負けると腹が立つのである。そして何時もケチをつけるのである。

鮎の友釣りの頃になると、毎日釣りに行きたくてソワソワし出すのである。その時は行きなさいよと言うと、子供の様に喜んで飛んで行く。然し父六十歳の夏、昼食を済ませて川へ急いで出かけ、心筋梗塞で川辺に倒れた。幸い対岸に鮎釣りの知人が沢山居たので、すぐ飛んできてくれ看病をし、家に連絡をしてくれた。父は幸いその日は川に入らず岸辺に立って釣って居た。そして鮎がかかったので川を下り、鮎を網に入れて元の場所へ帰った途端倒れたと対岸で見っていた人が教えてくれた。幸い一命は取り止めたが、父が後になってその時のことを話した事がある。倒れたときのことをよく覚えていないが、医者である自分は、ここで狼狽したのでは恥になるから激痛をじっと我慢して取り乱す事はすまいと心に誓ったのだと。何時もなら川の中に入って鮎掛けはするのに、その日は対岸に釣人が多かったので反対側で釣っていたのが幸いした。川に入って釣って居たら間違いなく死んでいた事ことだろう。

父の趣味は川のみならず狩猟、主としてキジ、山鳥、シギ(編集注：鴨(シギ)ではなく、鴨(カモ)の間違いだと思われる)等が対象物であり、これもまた毎日毎日である。昭和初期の頃で自家用車はない。毎日タクシーで運転手を連れて歩くのである。これも毎日毎日よく続いたものだと感心して見ていた。余程元気な者でないといふと真似出来る芸当ではない。それに狩猟の腕も一級品であった。ある時はキジを丸羽も撃って来たのには驚いた。

父の事を褒めてばかりで恐縮に思うが、実際歌を唄う事を除けば何でもやった。中学校時代は柔道をやり、何時から始めたか定かではないが弓道もやった。絵も上手であり、毛筆も綺麗な字を書いた。東京医専創立当初の連判状の最初の書き出しは父が書いたと聞いていた。また解剖学の講義の時使用された図譜も父の筆になるものと聞いた。医療の面でも非常に勉強家であり、死の一年前までアメリカから取り寄せた原書を辞書片手に翻訳していた。外科のオペに使う機械でも色々工夫を凝らし便利なものを自分で作っていた。メスも自家製で、一本のステンレスに鋼を接続して自分で研磨し、よく切れるメスで開腹術に使っていた。切れ味が落ちると自分でまた研いで使うのである。その勤勉さと努力には今でも頭の下がる思いがする。然し父も一人の人間である。良い点ばかりである筈がない。父は生来短気者であった。それが一寸やそとの短気ではない。父の時代、広島県の北には外科医は多分父位のものと聞いていた。クランケには、的確な治療をするのであるが、一寸でも父の気に触る行動や話し方が悪いと瞬間的に父の激怒が大爆発するのである。あの頃、いや父が死ぬ迄、叱られない患者は居なかったであろう。あの炯々たる眼光で睨まれたら誰でも震え上がった。小生は毎日睨まれていた。田舎から患者が来るときは村によっては、村長の訓示があったと言う。村長「荒瀬に行ったら先生に決していらん事は言うな、黙って診て貰って来い」。これは嘘のような本当の話である。今でも父を知って居る人は、先生は本当に恐ろしかったと言う。家に来る連中も沢山あったが、特に開業当初より

出入りして居た人々は、父に先生とは呼ばず、親分と呼んでいた。幼い頃の小生は奇異に感じられた。父は人情家でもあり、金の無いクランケからは、一銭も取らなかった。人の面倒見も良かった。それで父の周囲には人が何時も集まって、何時も哄笑が絶えなかった。

父は英会話が話せた。戦争中三次町の尾関山と言う桜の名所があるが、そこにオランダの病院船の捕虜が、人数は一寸忘れたが軍医中將を頭に相当の人数が居た。その連中の中に病気になる人も居た。そして父のオペを受け良くなった者が三人位居た様に思う。こんな時に英語が喋れると言う事は、非常にプラスになる。父が英語を喋れた為に、彼、彼女等は助かったのである。

いよいよ彼らが母国オランダに帰る時、一夜送別会を催した。彼等は父に感謝の言葉を述べ、国に帰ったら必ず父を招待すると約束した。しかし、何年経っても招待状が遂に来なかった。ただし父はその事について一言も語ろうとしなかった。後に分かった事であるがオランダは日本に対して非常に敵愾心を持って居た事が報じられた。お国の事情があったので、招待状も出せなかったのであろう。

戦後間もない頃、当時の耳鼻咽喉科の教授広瀬隆先生と、お供として南原、蔵田両先輩が来られ、父といろいろ話された事もあり、その後、外科の故篠井教授、それに今尚元気で御活躍中の杉江教授も来広され、父と酒を痛飲され乍ら一夜を過ごされた事があった。あの当時が父の一番脂の乗った時ではなかったろうか。うれしそうだった父の顔が懐かしい。

父も昭和三十年夏、心筋梗塞で倒れてから段々と弱って行ったが、勉強だけは

続けて居た。毎朝毎朝当時としては、珍しいアメリカの外科の原書を読んで色々教えてくれた。今でも頭に残っているのは小児兎径ヘルニア変法は創痕も残さず比較的簡単なものであった。

父が死期が近づく頃、盛んに右腹を押えて居た。多分肝臓に変化が起こり痛みでもあったのだろう。それでも主治医の先生の目を盗んで川に山へと出掛けた。死ぬ迄それは続いたのである。父は昭和37年4月下旬アポで倒れ5月3日朝永眠したが、私の拙い文章では、表現できない豪放な数奇な生涯を閉じたのである。

父は広島県の同窓会会長を昭和初期より、井槌先生に受け継ぐまで二十数年勤めた様であるが、その頃は今の様な東医出身者は多くなかった。父がどの程度の事をして居たのか私は知らなかった。

話をするなら一晩かかっても語り尽くせない程の話があるが、いざ文章にするとなると実に拙い筆となって情けないと思います。

余暇を割いて書いた下手な文で御免なさい。

父の思い出の一旦にもなっていないと思いつつ筆をおきますこと重々お許しください。

6.2 溝田一家と荒瀬家の関係

私たち溝田一家(両親と姉弟の5大家族)は、昭和20年3月東京の吉祥寺から旧広島県双三郡川地村下川立の荒瀬家の旧宅に疎開した。戦争の爆撃などがひどくなり東京は危険だということで、母の長姉(喜代、秀俊の妻)の嫁ぎ先であった荒瀬家の旧宅が広いので、受け入れてくれるということでお世話になったのであった。昭和39年夏までの19年と5ヶ月の間そこに住まわせてもらった。伯母は若

いころ大変な美人で、新宿小町と言われていたそうで、近くの東京医専の学生だった伯父が見初めて結婚したと聞いている。

溝田千代子(2017年100歳と11ヶ月で没)の話によると、関東大震災(1923(大正12)年9月1日)の直後は、1週間ほど東大久保の東京医大運動場に避難して、交通混乱のため帰るのが遅れた父を待って、野宿をしていたそうである。その頃、流された風評で外国人が日本人の井戸に毒薬を流して騒乱を起こすというのがあって、皆不安であった。しかし、当時東京医専に勤務していた荒瀬秀俊は、「そんなことはないので安心するように」と言って回ってくれていたそうである。

6.3 佐藤英子(旧姓 溝田英子)の記憶

我々が川立に移った昭和20年3月末には長姉英子は満6歳である。4月から小学生になった。その年の終戦直後、9月12日には、オランダ人収容者の一団は三次の地を離れ福塩線経由で帰国の途についている。三次を離れる直前に秀俊は、手術を受けたブラウワ婦人を含む主だったオランダ人を自宅に招いて送別会を行っている。このことは児玉ハズエ看護婦長の話として、文献⁹⁾に記述されている。また秀治君の母、荒瀬慶子の話として文献⁴⁾には“軍医さんも看護婦さんもここに来るのが楽しみだったようで、5、6人でよく来ていました”、とある。また“送別会には荒瀬家によく出入りしていたメレマ軍医らや看護婦10名余りが招かれ久しぶりのごちそうに舌鼓をうった”ことが記されている。

英子はその頃の記憶として、ある時、荒瀬家を訪ね居間兼食堂に入ると突然の大きな外国人が数人いて驚いて泣きだしたそうである。するとその内の一人がキリンとゾウの縫いぐるみを渡して慰めてくれたそうである。その頃小学1年生の英子は、夏休みでない限り日

曜日しか10km以上離れた三次の荒瀬病院に行けないはずである。外国人が数人いたというその日は終戦の年の1945年4月から9月のことであろう。8月には原爆の被害者診療などで、伯父たちは忙殺されていたであろう。当時西洋人が三次にいたというのはこのオランダ人たち以外に考えられないので、事実と記憶が符合する。二つのぬいぐるみは、その後、遊んで壊れ、しばらくは下川立の家にあったが既に廃棄してしまった。もちろん、このような国際的事件に関連したものだとは思ひもしなかった。

6.4 荒瀬の伯父ちゃん

私たちは、荒瀬の「おじちゃん」と呼んでいた、伯父は、先に書かれているように怖い人だったようで、家族や親戚の大人たちは一目も二目も置いて気を使う相手であったことは子供の目にも分かった。しかし、疎開時に3歳だった忠人は、その後も特に怖いと思ったことは無く、興味深い面白いおじいさんという感じであった。

6.4.1 患者としてお世話になったこと

川立に引越してから、肌の弱かった私は、終戦直後の食料事情も悪く、抵抗力がなかったのだろう、夏になると虫刺されの跡が化膿し両足全体に包帯を巻いているような弱い子供だった。その手当を荒瀬病院でやってもらっていた。包帯をほどいて薬を塗ってまた包帯をしてもらうだけだったが、包帯に膿が固まって着いており、はがすときはかさぶたがはがれて血が出る始末で泣きべそをかいていた。その処置をやさしくやってくれていたのが児玉婦長さんだった。小学校に上がり3年生くらいになると抵抗力がついたのかそういうことも無くなった。

4年生の時には、今考えるとおそらく夏休

みに川で泳ぎすぎて体力を失ったのか、秋になって微熱が続き下がらなくなった。荒瀬病院でレントゲンを撮ってもらったら「肺門リンパ腺炎」という結核の入り口の病気になっていた。幸い当時ストレプトマイシンという抗生物質が使えて、1カ月間荒瀬病院に泊まり込んで、朝晩その注射をお尻に打ってもらい完治することができた。こういう新薬が使えたといっても決して当時は一般的ではなく、伯父の絶大な援助があって措置してもらったものであろう。後で、「結核の影が残ると健康診断でいつも引っかかるから、そうならなくてよかった」と伯父に言われた。荒瀬病院に泊まっている時は朝夕体温を測ったが、特に夕方の検温が下がらず37℃を越してしまう。だんだん耐え切れなくなって、検温中に体温計をわざとずらせて低く見せようとして、低すぎてばれたりして怒られた。平熱に戻った時はみんなが喜んでくれたのが忘れられない。この間学校にも行かず荒瀬家の一員と寝食を共にしたので、暇があった。伯父の蔵書から銭形平次捕物帖を抜き出しては読んだ。

当時は「肺病」と呼ぶ結核を患っている人も多く子供が罹患することも多かったろう。川地小学校1年生の時担任の若い美人のT先生が教室でせき込んでハンカチに真っ赤に血がついていたのを見た。その後先生は休職して、おばあちゃん先生(子供の目にとって年配のその先生は、後に三次で開業される**箕岡先生のお母様**です。)に代わったので、ちょっと残念だった。

今では考えられないことだが、伯父が「忠人、今から手術をするが見るか」と言われたことが何度かあり、その都度私は見せてもらった。たいがい「盲腸」の手術だったが、ある時など、若いきれいなお姉さんが横たわっており、そのお腹を開けて最終的に伯父が手にしたのは、大人の握りこぶしほどの

血のついた球体だった。後から考えると子宮筋腫の切除だった。伯父は、その患者に「もう大丈夫だ、子供も産めるで」と言っていたように覚えている。どうも、私に興味をひかせて、医者になって欲しいと思っていたらしかった。

6.4.2 伯父のものづくり

ものづくりの上手い人で、自分の道具であるメスを自作したが、極めて小さいとがったメスは耳鼻科の手術に使うと言っていた。また、東京医大の先生(英子談)に進呈するのだとあって、特に念入りに作ったものは、金メッキを施していた。四角い普通の金魚鉢のメッキ浴槽の中のメッキ液は濃い緑色できれいだった。蓄電池の電源につないでメスと陽極の金板が沈められ、出来上がると美しい金色のメスであった。メスは一般の鋼材から作るのではなく、刃は日本刀を切断して切り出し磨いて作り、持ち手は真鍮などで作っていた。刃の部分をはめ込んで、ピン止めして叩いてカシメつけ磨き上げ、更にメッキを施すと、一体になってきれいであった。出来上がるとメスを自分の後ろ頭の毛の所(ちなみに伯父は当時てっぺんに毛はなかった)に触れさせて切れ味を見ていた。その動作が何のことか分からず、坊主頭の私がまねしてメスを頭に持って行った時はびっくりするような声で危ないと咎められた。その声のほうがよくほど危なかった。剃刀のように毛をそれるところまで刃を磨いていたのだった。

その他、アユの友釣り用の生きアユを入れる箱も自分で考えてブリキ屋さんに作ってもらったもので、釣りをしながら簡単にアユが入れられ、かつ簡単には逃げないような仕掛けがしてあった。

6.4.3 英語の質問など、伯父の悲喜こもごも

中学・高校生ころになると、一緒に食事すると、秀治の記述にもあるように、従兄たちと同じで、英語の試験が始まるのだった。「大根はなんというか」「ヒョウはなんというか」などと難問に発展するので往生した。しかし、扎扎实り御馳走はいただくことができた。

私が大学生になって、三次から離れている時に伯父は亡くなった。心臓、肝臓などに病を抱え、私が3月の末に大学に戻るので最後に別れた時はかなり重体で、発語も難しかったが、枕もとの私には「忠人…」と聞こえたように覚えている。伯父は、「医者は病人を治すために半分手助けするだけだ、あとの半分は患者の生命力で治るのだ」と含蓄のある事を言っていた。

明治の人には当たり前であろうが、天皇がテレビに映ると、「テレビに写すなど不敬である、けしからん」と言い、テレビの前に正座して頭を下げ、時に涙を浮かべていたそうだ。

広島の前爆直後の救援に三次の医師団長として行き医療活動を行った⁷⁾次男の敏博(当時医学生)と児玉婦長も同行した。軍人にもいろいろあって、「俺は軍人だ、早く診察しろ。」と要求する人もあれば、ひどい怪我にもかかわらず黙って順番を守る人もいた。」と聞いた。伯父と従兄については確認していないが、児玉婦長は原爆手帳を持っていた。

敏博兄は柔道4段で、医専を卒業し荒瀬病院を手伝い始めたころ出身の三次高校に出向いて稽古に加わり、高校生の主将らをぶん投げていたとか。

伯父は、晩年、閉所恐怖症に悩まされていた、夜寝ている時などにパニック症状が出る事があったようだ。周りの話しでは、被爆者診療に行った時に受けた精神的、肉体的

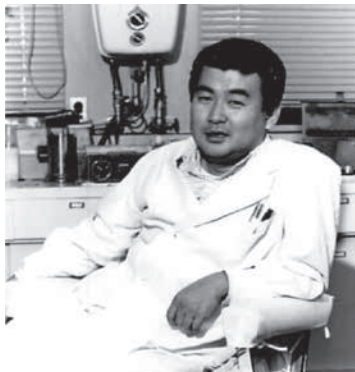
ショックのせいではないかと言っていたが、パイオニア的な外科医として恐らく多くの修羅場を経験し、外面に反して決して豪胆なばかりでない伯父は相当なストレスに耐えて生きていたのではないかと思う。

晩年、あちこち体を悪くする中で、便秘に悩まされていたようで、ある時、便所に半紙の張り紙がしてあった、正確な文面は記憶していないが、「久しぶりに出るものが出てこんな良い気分のものはない」という俳句のようなものだった。トイレまで紙と筆を伯母に持ってこさせて書いたのだそうだ、皆が陰で笑っていた。

6.4.4 秀賢君とのこと

故荒瀬秀賢君との記憶も書いておきたい。彼は、諸事情で幼児期から小学生まで祖父母の下で両親から離れて育てられた。病院と一体の家の中で、唯一の子供であり、相手をしてくれる人の多くが病院スタッフであり、特にコブちゃん(児玉婦長をそう呼んでいた)は彼をかわいがっていた。従って、小学校に入る前まで、他の人から「ぼっちゃん」と呼ばれるので、自分のことをそう呼んでいた。さすがに、周りが学校に上がるまでには直そうと努力していたがなかなか修正できず、我々にもその手伝いが命じ(?)られた。彼は、川立の家に来ると我々のような子供の遊び相手があり、特に正面に芸備線のSLが見える家なので、汽車の通るのをことのほか楽しみにして、汽笛が聞こえると、縁側に走って行き、飽きず眺めて、長い貨物列車の車両数を数えていた。「ぼっちゃん」もすぐに治った。水泳も裏の可愛川(えのかわ)で我々に教わってできるようになった。4年生になって、ローマ字がなかなか覚えられないので、何とかしてと、そのころは母の慶子さんも一緒に住むようになっていたろうか、頼まれた。川立で

は絵は描いていたが勉強はしていなかったので、どうしようか考えた末に、彼の好きな広島カープの選手の名前（当時はKOZURU、SHIRAIISHI、HASEGAWA等だったろうか）をローマ字で書いて見せたら、がぜん興味を示して、いろんな選手の名前をどう書くか尋ね始め、あっという間にローマ字をマスターしてしまった。汽車とカープ、彼の生涯の趣味(?)の2つの根っこは既にそのころには確立していたようだ。



ある日の診察室にて



下川立町旧荒瀬邸前にてピッチング

6.5 荒瀬家との思い出

6.5.1 荒瀬秀俊伯父にはお世話になった

武人が小学生の頃であるが、軍服を着た大きな外国人が4、5名やって来て秀俊伯父と歓談しようとして応接間に入ろうとするので、中にいた私は出て行ったという記憶が私にはある。伯母達が応接間に飲み物などを運び込

んでいた。この時期にオランダ人が訪ねて来たという記録は見当たらないので、別グループだったのかも知れないのだが、疑問のままである。

小学校の1年生の時、可愛川で水遊びをしていて、武人は中耳炎になった。2年生になって、右耳の裏側を切開する手術を秀俊伯父にしてもらった。局部麻酔の厳しい手術であった。自作のメスで切開して鉛のハンマーでノミを叩いて骨を削り取る音や術後のガーゼ替えの嫌な感覚は、今でもよみがえる。

そこはオランダ人を手術した7年後の同じ手術室である。その手術から12年後、大学付属病院で右慢性中耳炎術後症と診断されて大学1年と3年の夏に2度の手術を受けた。その時の担当医は、「12年前にこれだけの手術をする医者はなかなかいなかったはずです」と、伯父の手術を称賛した。今でも耳のことではなんとかなっているのは、伯父達のおかげである。

三次の荒瀬病院の中庭には大きな池があり、四六時中冷たい井戸水が注がれていた。深い方には、1m近い山椒魚(ハンザケ)が何匹もいて、浅い方には鮎や鯉が泳いでいた。中庭の檻にはニホンザルが飼われていた。廊下にはウズラが伯父自作の竹籠の中に居た。フクロウも飼われていてホ〜という呼びかけに応えていた。確かムササビも居た。

伯父は猟銃だけでなく、空気銃も持っていた。庭に飼っていたニホンザルの小屋に寄って来る蠅を、空砲で縁側から撃ち落としたり、部屋の天井の隅に止まっている蠅もこれで撃ち落としたりして楽しんでた。空砲から発射される空気の渦は遠方まで正確に直進することを知っていて、空気の渦を弾の代わりに使っていたのである。

狩猟のために別の庭には猟犬が10匹近くは飼われていた。そこで生まれた子犬を川立に

もらって番犬として飼っていた。ゴールという真っ黒で大きな犬の時は、体重の軽い私は背中に抱きついて乗って歩かせていた。そんな訳で「犬好きか」と聞かれたら、「別に犬を好きという訳ではないが、犬が私を好きだからね」と応えている。その犬との生活で忘れられない伯父との会話がある。

伯父は博識だったので、ある時自分がこの眼で見たことをぶつけてみた。川立の荒瀬旧邸の真正面には茶白山という山があり、その麓には芸備線が横断している。その下の田んぼに続く芝の斜面は我々の格好の遊び場であった。あの頃の冬は雪も良く積った。早春になって雪が消えて芝地になっても、手製のそりで遊ぶことに熱中した。その日は、その頃飼っていた猟犬のチヌを連れて川立の大勢の仲間と一緒に遊んでいた。チヌは子供達と一緒に走り回っていたが、やがてソリで滑りはじめようとした私の隣に来て、行儀よく犬座りをした。私が滑り始めると、そのままチヌも前足だけの動作で尻滑りを始めて一緒に滑って降りて来る。こいつは人間と一緒に遊びに参加しているな、と驚いた。そこで、その観察を伯父に伝えた。「伯父ちゃん、犬と一緒に遊んでいる積りかねえ」。伯父は、「それはその通りだね。自分が猟をする時に、賢い猟犬はハンターが撃ち易い方向に雉を飛び立たせてくれるからね」。と言った。それからは犬に一目置くようになった。

伯父は川釣りが大好きで、晩年には浅瀬に椅子を置いてそこに腰かけてまでハヤ釣りを楽しんでた。ある時は川立の可愛川の対岸に行く途中の土手道で幼なじみの永木のお婆さんに会って立ち話を始めた。永木のお婆さんは親戚でもなんでもないが、身寄りも無かったからか、旧荒瀬邸の一隅に住んでいた。その時、お互い60歳はとうに過ぎていたけれど、「過ぎてみれば人生はアッという間だね

え」と、しみじみした口調で言った。17歳の頃の私は、人生とはそういうものなのだ、と痛く感じ入った。

6.5.2 荒瀬敏博兄にはなにかと可愛がって頂いた

敏博兄も狩猟や河釣りが趣味でその様子は文献²¹⁾からも知ることができる。高級なバイクと猟銃とカメラを持っていて、それがいずれもドイツ製なのだと自慢していたことがある。ドイツ製はステータスシンボルなのだと刷り込まれた。後年、ライカM3のカメラをドイツで買って来たが、飾り物になっている。

小学校3年生の時は、武人は風邪を引きやすい体質であったことを改善するため扁桃摘出手術を敏博兄がしてくれた。その手術中に脳貧血を起こして気が遠くなったので、片側摘出後一時中断して気を取り直してもう片方も摘出した。耳の治療を受けたある時、「武人、今夜はイダ釣りに行くから、イナゴを獲って来とけ」、という。私は、旭橋を渡って寺戸の田んぼでイナゴを獲ってきた。祝橋下流の尾関山の近くの江の川の深みでの夜釣りでは40～50cm級のイダが釣れた。

またある真冬の夜の遅い時間に、川立の外堀の門をドンドン叩く人がいる。母千代子が、「どちらさんですか」と、訝しげに聞く。すると、「ワシャあ川地の狸じゃ」、と敏博兄の声が聞こえて来て、なあんだとホッとしたことがあった。あくる早朝から狩猟をするために川立の家に泊りに来たのである。

三次高校に通っている時は、十日市に住む敏博兄の家に泊めてもらうことが良くあった。そんなある日、敏博兄が私にお弁当を作ってくれたことがあったらしい。晩年になって、敏博兄から、「わしゃ武人に弁当を作ったことがあるのだけど、覚えているか?」、と言われて恐縮した。私は全く覚えていなかった

のである。その後も何度か手紙を貰って、分家して十日市荒瀬病院を始めたいきさつを知らせてくれたり、私の就職を祝ってくれたり、何かと温かく気を掛けてもらった。

6.5.3 荒瀬秀賢、秀治兄弟との縁

毎年正月2日には川立から一家で荒瀬に年賀の挨拶に行く。武人の記憶ではっきりしていることがある。白衣の大きな人が、赤ちゃんを白いタオル地で包んで抱いている。私は赤ちゃんの顔を見たいのだが、見えない、というシーンである。後々考えると、それは私が2歳11カ月の正月で、生まれたばかりの秀賢君と彼を抱いた児玉婦長さんだったのである。これが私の人生で一番古い記憶である。

その秀賢君とは三次でも川立でも至る所で一緒に遊んだ。とりわけ川遊びには熱中した。三次では、可愛川が江の川に合流する辺りでハヤの瀬釣りをしに行った。そんな朝は早く起きるので、自分たちで朝食をつくる。秀賢君がフライパンを使って、ご飯をバターで炒めながら生卵を落とした炒めた朝食を用意してくれた。なかなか美味しかった。

夏の時期、川立では本流の可愛川の上流で赤痢が発生して、深川橋辺りは遊泳禁止になることが時々あった。そんな時は支流の長屋川の沢登り遊びをしながら、“清水～ドンド



楽しかった川遊び 可愛川、深川橋の上流
昭和35(1960)年8月
左端：秀賢、中央：秀治

ン”と言われていた澱みまで出かけて遊んだ。

お互い50歳を過ぎた頃、秀賢君から一枚の絵が送られてきた。「どうしても武ちゃんに見せたいので送った」、というのである。それは、イラストレーター西口 保氏による“日本の四季、川で遊ぶ子供たちの風景”という作品で、カレンダーの絵だった。我々の子供時代の原風景そのものであった。

秀賢君は2019年1月11日に札幌の病院で亡くなった。おそらく息を引き取る12時間位まえであろうが、11日の早朝に、私は夢を見た。秀賢君がベッドの上に半起になって、「武ちゃん、会いたいんだけど会いに行けんのよお、会いに来てくれんかのう」、というのである。年が明けてどうしているかと気になっていたからこんな夢を見たのだろう、と目が覚めてから思った。しかし、その日の夕方訃報が届いた。時々こういう話は聞くけれど、自分も本当に体験したのである。

秀治君には兄・秀賢君の葬儀の日に久し振りに会った。おそらく十数年振りであろう。駐車場にいたら遠くから「溝田さん、溝田さん」と呼ぶ人がいて、友人のようだけど誰かいなと思った。奥さんの淳子さんとアウチャン(秀治の幼児期の呼び名)がゆっくりと歩いて来た。さっきも呼んだのだけど私が気づかなかったという。私は「お互いこの歳だけど秀治君に溝田さんと呼ばれる筋はないよねえ、アウチャン武ちゃんだよね」、と言ったら奥さんの淳子さん共々笑い出した。



小学生時代の荒瀬秀治 昭和36(1961)年1月

7. 編集後記－秀治君の原稿を編集して

この文章は、荒瀬秀俊の孫である荒瀬秀治（平成31（2019）年2月6日他界）が亡くなる直前に書き残した原稿を基に編集したものである。作業をしたのは、秀治君の父、荒瀬秀隆の母方の従弟の溝田忠人・武人兄弟である。既に病が重症と思われる秀治君が原稿の50ページ以上をパソコンで書いていたが、完結させる時間がないことを悟り淳子夫人を通して、幼なじみでもあった我々に委託したのである。病状が悪化する中、執筆は大変だったと思われ、書き直そうと努力するもコピーした部分を直しきれないで、次々にペーストし積み重なってしまったような状態であった。しかも、秀治君の兄秀賢君は秀治の死の約1月にも満たない前、平成31年1月11日に逝去しており、三次に存在したこの戦時中の貴重な経験の当事者、荒瀬秀俊の直系である秀治君をおいてこの史実の記述に手を付ける適任者はいない状態を意識してのことだろう。（我々は、両君のことを秀賢ちゃん、秀治ちゃんと呼び、秀治ちゃんのことはアウチャンとも呼んでいた。アウチャンは、赤ん坊の時皆からそう呼ばれていたからである）。

秀賢君の葬儀の日、平成31年1月14日に秀治君は病魔と闘いながらも淳子夫人に支えられて参列した。その控え室で、この文書の完成が近い、ことを我々に話した。我々は、それは貴重な文書に違いないので、頑張って完成させるようにと励ました。しかし秀治君の努力はすでに限界に近く、1カ月も経たず亡くなった。

従って、三次のオランダ人収容者の記述などに関しては三神国隆氏の文献⁶⁾を読んで書いている部分も多いと思われる。児玉婦長から聞いた話との区別が判然としないところが多くあった、編集者の責任で、なるべく引用符を付けたが、はっきりしない点も多かった。

この文書のタイトルは、2.10の中の記述、「外科医のメスに国境はない」から採っている。赤十字の精神は以前からあり、秀俊伯父も十分心得ていたであろう。今では“国境なき医師団”という世界的な組織もある。しかし、1944年当時の日本の国粋主義の厳しい時代に“外科医のメスに国境はない”という考え方を交戦相手国の収容者に対して実行した気概は、明治生れながら赤十字精神に加えて古武士の精神を持ち合わせていたことを示している。

この出来事に関してオランダ側の当事者が遺した文書を、オランダ国立公文書館からジャーナリスト三神国隆氏が取り寄せた。その資料やその他の資料をもとに米丸嘉一先生（溝田武人の三次高校時代の恩師）がまとめた論文⁴⁾は決して長くはないが密度の濃い内容にまとめられている。小宮まゆみ氏は文献¹³⁾で収容者として三次で暮らしたオランダ人軍医の子息との奇跡の出会いを果たしたという報告を行っている。それに対して秀治文書は、もう一方の当事者である荒瀬秀俊、児玉ハズエ看護婦長側からの証言を含んでいる。

我々は、秀治君より少し年長であり、秀賢、秀治兄弟がまだ就学前から小学生の時代、兄貴分として我々の住まい荒瀬家の旧宅（現、三次市下川立町）に遊びに来る彼らに可愛川（えのかわ）の深川橋付近は格好の遊び場であり、水泳、石投げ、お絵描き、山菜取り、花摘み、魚釣り、魚とり、などして遊んだ仲であった。当然、秀俊伯父にも大変世話になった。従って、伯父の人間像を示す思い出を、我々の姉、佐藤英子の記憶も含めて6に付け加えた。

8. 謝辞

この文書をまとめるに際して、多くの方々にご協力を頂いた。米丸嘉一先生には、原稿

を読んで多くの有益なご助言を頂いた。またタンゲナ鈴木由香里(POW研究会)、小宮まゆみ(POW研究会、元高校教諭)のお二人には原稿を読んで頂き、英文化して公開すべき、という貴重なご助言と激励を賜った。現在、英文化はほぼ終わっている。小宮まゆみさんからは文献¹⁹⁾および米丸先生と荒瀬家を訪問されたとき撮影された写真の提供頂いた。また、現在荒瀬外科の玄関に置いてある人力車も訪問者には珍しく、その写真もいただいた。三神國隆氏には、文献⁶⁾との関係で、原稿を読んでいただき、特に、オプ・テン・ノール号が拿捕された日付を2月26日と明記すること、オランダ人達は民間人であり戦闘員ではないので捕虜とか捕虜収容所という言葉は使わないこと、手術のためオランダ人看護婦ブラウワさんを三次収容所から荒瀬病院に移送したとき使ったのは布団を敷いたリヤカーであったこと(秀治の記述では担架となっていた)など、貴重なご指摘をいただいた。三神國隆氏の荒瀬秀俊評は“なにしろ快男児です”ということであった。

三次市立図書館館長有光七重様、君田図書館加島様には文献²⁾や種々の新聞資料を送って頂いた。東京医科大学図書館野坂美恵子、戸村裕菜、工藤 彩様の方々にはラウベル解剖学教科書を見事に探し当てて頂いた。さらに荒瀬敏博の文書も見つけて下さった。ゲオルク・ティーメ社のBarbara Eliasさんに

は文献²⁰⁾から転載することの許諾を頂いた。東京医科大学医学部医学科同窓会事務長の長谷美地様は文献²¹⁾からの転載を許可して下さいました。

秀治君の従兄弟にあたる澤 裕幸、能美(旧姓、澤)洋子、坂根(旧姓、澤)玲子氏の兄姉妹には編集者の議論に何度も協力して頂いた。また秀治君の妻・淳子さんと、秀賢君の妻・妙子さんからは数々の貴重な写真などを多数提供頂いた。それぞれ、この文書の完成を心から待ち望んで各種のご助言ご協力を惜しまれなかった。

荒瀬秀俊の描いた人体頭部解剖図やその基になったラウベル解剖学教科書の原画、さらに秀俊自作のメスなどは、東京医大に寄贈し、または、地元三次市を含めてしかるべき受け入れ機関のご理解が得られれば、保存・展示等していただければと親族関係者は願っている。

秀治君も最後の所で書いているように、この出来事がこのような結果に終わっていなかったら、東京裁判に掛けられおそらく、不名誉な結果が後世に伝わったことだろう。その意味でも荒瀬秀俊の判断と行動は末永く後世に伝えられるべきものと考えます。

末筆ながら、相次いで亡くなった荒瀬秀賢、秀治兄弟のご冥福を心から祈ります。この文書の完成にご協力下さった皆様方に編集者は深く感謝いたします。

引用文献

1. 溝田武人、荒瀬病院旧邸代主に関するある伝聞について、巴杏、三次地区医師会会報、No.164、pp.21-26、2018.10
2. げいびグラフ、巻頭人物風土記、荒瀬秀俊、(株)菁文社、第44号、昭和61(1986)年7月5日発行
3. 支局ノート、戦争の不条理伝える抑留所<三次>、中国新聞北部版p.27、平成12年、2000.9.8
4. 米丸嘉一、戦時中の三次捕虜収容所について-オランダ国立公文書館文書から-：三次地方史、第54号、2000.9.20三次地方史研究会発行
5. 平和を考える、三次英米人抑留所の貴重な写真、欧米流の交流の礎に、朝日新聞広島版、2009(平成21年)10月7日
6. 三神國隆、海軍病院はなぜ沈められたか-第二氷川丸の航跡-、光人社、ISBN 4-7698-2443-2 c0195、2005.1.15

7. 「つらかった収容所の生活」オランダ人元捕虜32年ぶり三次訪れる、中国新聞、昭和53(1973)年1月29日
8. 朝刊コラム、ほのぼの欄、国境越えた良心のメス、中国新聞1990.2.2、p.26
9. 20世紀スポット、㊟三次の抑留所・捕虜収容所、戦時下に園舎が変ぼう、国境を越えて交流芽生える、中国新聞、平成12年、2000.8.23
10. 贅澤な“海の病院”、皮肉や自国の捕虜を満載輸送、抑留下の和蘭病院船、朝日新聞、昭和17(1942)年4月2日
11. 三次捕虜収容所スケッチ、オランダ人の鉛筆画、市にコピーを寄贈、中国新聞、平成29(2017)年6月1日
12. もうひとつのヒロシマ99、再建への鼓動26、被爆者に乾パン配る、中国新聞、昭和59(1984)年10月8日
13. 小宮まゆみ、三次の民間人抑留所をめぐるヤン・クワフェルデンさんとの交流、P O W研究会、Dialog JI、2018.01.18
14. 荒瀬秀隆、春山広臣：乳腺結核2例、日本臨床結核、Vol.10、No.10、pp.546～548、1951-10
15. 春山広臣、荒瀬 秀隆：腎盂尿管畸形に依る外科的疾患について、臨床外科、Vol.7、No.13、pp.773～774、1952-12
16. 荒瀬秀隆：発癌母地の立場から見た肺の慢性非特異性炎症病巣における気管支粘膜上皮系の変化に就いて、日本外科学会雑誌、Vol.58、No.9、pp.1406～1423、1957-12
17. 荒瀬秀隆：発癌母地の立場から見た肺の慢性非特異性炎症病巣における気管支粘膜上皮系の変化に就いて、東京医科大学、医学博士、学位授与年月日：1957-07-26
18. 米丸嘉一、戦時中の三次捕虜収容所-オランダ国立公文書館文書から-、げいびグラフ、ふるさと歴史物語、第85号、平成12(2000)年11月10日発行
19. 小宮まゆみ：敵国人抑留-戦時下の外国民間人-、吉川弘文館(歴史文化ライブラリー267)、2009.2
20. A. Rauber, et al., Lehrbuch der Anatomie des Menschen ; Abteilung 3: Muskeln, Gefasse. pp.87-98, Neunte Yermehrte und Verbesserte Auflage. Georg Thieme, Leipzig, 1911. (A.ラウベルら著：人体の解剖学教科書 部門3：筋肉、血管、pp.87-98、第9版は増加版と改良版を含む。ゲオルク・ティエメ社, Leipzig, 1911.)
21. 荒瀬敏博、親父、秀俊の思い出、東京医科大学同窓会 広島県支部の歩み、pp.131-134、1989
22. 東京医科大学百年史1916-2016、東京医科大学創立100周年記念事業記念誌委員会、平成30(2018)年。
23. オランダ人抑留刻んだスケッチ、朝日新聞大阪版夕刊、2017.6.24



いま、考えてみましょう！ 三次と気温温暖化の ことを。



あんどう眼科 安藤 仁



平安閣 閉館 年末で 記事が、1月11日の中国新聞県北版にやっと載りました。

結婚式場として1987年にオープン。結婚式は減少するも講演会や大きな会議、懇親会などコンベンション機能を担っていました。記事に、地元経済への影響を心配する声もあると書いてありましたが、**大いにあると市長さんに何度も申ししてきました**。商工会議所も出来る範囲で引き継げる所を当たってくれたそうですが、年間3000万円からの赤字補填を克服する提案が、三次市などから提示できず新規事業者は現れませんでした。この情報は新聞社にお知らせ済み。財政が厳しくなるので無理と市議さんも動かず。同業他社やJA三次さんにも検討を依頼されましたが、コンベンション機能に興味を持っていただけませんでした。

12月20日(金)の報道では、庄原市第三セ

クターが管理運営しているかんぼの郷庄原を、日本郵政から市へ譲渡したいと11月20日に打診を受けていたと、木山市長が市議会の全員協議会で述べたとされていました。利用者がピーク時の半分となり赤字は5400万円とのこと。2001年開業。平安閣は民間企業の赤字の話で、**かんぼ**は半分公的だからというのでしょうか、庄原市はどうされるのか？地元の人的交流の場としては三次市の方が甚大な悪影響が出ると懸念します。

三次市長さんは、9日の記者会見で、漢方薬原料を20年度に試験栽培を開始と言われたようですが、**かんぼの郷**については関心を示すも**平安閣**については発言なしでした。平安閣は取り壊されるそうです。更地になってビジネスホテルが来るようです。そうとなれば引き続きお願いがあります、**市長さん！**社会的文化的な活動で人が集まるために300人規模でも**宴会場を併設出来る様にホテル会社との熱心な話し合いを頑張って下さい。**



2020年1月 暗雲立ち込める平安閣です。
ガソリンスタンドとタバコ屋さんと事務所の
建物などがメインロードに立っていて建物を
立て直すにしても難しそうですね。

いっそのこと関係者の方をお願いをして
区画整理などが出来れば、設計が自由にでき
て土地が使いやすいでしょうね。
三次の市街地としての一等地ですから
いかがでしょうか？

『 災い転じて福となす 』となれば、
平安閣の撤退も有意義なことになりませんか!!



このビルは、どこでしょうか？ ヒントは、
日本料理の森新さんの前です。パチンコ店
のパチカルが、有ったビルです。奥行きが長
く立体駐車場がありました。かなり広い土地
のようです。噂では、ホテルが出来るとか？
本当？

2つも新規にホテルが出来るのでしょうか？
6月30日まで解体作業が続くそうです。長い
ですね。釣り具店のあった建物も壊されそう
ですので1000坪くらいの土地になるのでは

うか？取り壊しに日にちがかかります。



平安閣は、もっと大きな建物なので取り壊
すにしても1年でもかかるのでしょうか？
更地にされた後には、ホテルが出来るそう
です。宿泊施設だけでは、メインロードに面
する三次市の一等地に建つ建物としてはもっ
たいないですね。

この更地にするまでの時間を生かして、
ここを再開発地域に指定して 福岡市長さん
が進めたいと思われている 三次市のICT
情報通信技術を生かした情報発信ばかりで
なく受診の出来る場所にして頂きましょう。
三次市の活性化のために。



このグレタさんの顔は、最近よく見られて
いますか？この本は、2019年10月発行です。
マスコミで彼女たちの行動は、広く世界中で
報道されていますので皆様ご存知と思います。
たった一人のストライキ？

**No one is too small
to make a difference**

変化を起こすのに

小さすぎるなんてことはない

11歳のときに、授業で海に浮遊するプラスチックごみ環境問題の映画を見てショックを受ける。拒食症、自閉症、摂食障害などにおそわれる。オペラ歌手の母と俳優の父の長女として2003年に生まれる。アスペルガー症候群とも診断されるが気候問題、気候温暖化について科学者の専門知識やネット情報や本から独学で学ぶ。変わらない政府に嫌気がさして、2018.8.20.スウェーデンの国会議事堂前で座り込む。温室効果ガス削減政策の即時実行を政府に求めて、学校に登校拒否をする「学校ストライキ」を一人で実行(15歳)。SNSで世界に拡散された。9月9日スウェーデン総選挙まで、1日7時間、3週間続けた。世界中の子どもが続くようになった。その後は、週4日は学校に出て毎週金曜日はストライキを続行。“未来のための金曜日”というムーブメントが誕生。

ここまでしなければならぬと思うようになった経緯を、母親、父親が詳しく書いています。最初は両親の生い立ち 出会いなどが、子どものことと混ざり合いながら書かれているので混乱しました。目次があって索引が付くと読みやすい。

なぜ彼女は我慢しきれず、世界の決定権のある為政者に詰問する行動に出ざるを得なかったのか？そのわけを知るきっかけになる本です。 ご一読ください。

海と月社1600円+税

**きめるにも 決められないぞ 大人たち
発つぞ theyたち 業を煮やして**

大寒の1月29日のあんどろ眼科の玄関先。プリムラ、パンジー、ペチュニア、ストックと花だらけです。雪は積もらず、氷も張らず。



去年も暖冬でしたが、今年はさらにそれ以上です。平年気温より2～3度高いと。スギ花粉が飛んでいて敏感な患者さんが「目がかゆい」と来られています。オーストラリアの森林火災も強烈です。冬なのに大分県で時間雨量110mmを、記録しています。いつでもどこでも災害が発生しています。南海トラフ地震も心配です。

災害を予測して対処法を考えておくように!!

想定以外でしたとは、言わないように。



**1月29日(木) 7時50分
あさぎりにかかる“あさ虹”**

追伸 2月17日(月)～18日(火)に雪が降り三次町で10センチの積雪となりました。寒気が西から入りました。



Lixiana[®]
edoxaban

経口FXa阻害剤

リクシアナ[®]錠・OD錠
15・30・60mg

薬価基準収載

一般名：エドキサバントシル酸塩水和物
処方箋医薬品 注意—医師等の処方箋により使用すること

OD錠
新発売

※効能・効果、用法・用量および警告・禁忌を含む使用上の注意等については製品添付文書をご参照ください。



Daiichi-Sankyo

製造販売元（資料請求先）

第一三共株式会社

東京都中央区日本橋本町3-5-1

2017年11月作成

命のために、
できること
すべてを。



大日本住友製薬

Innovation today, healthier tomorrows

まだないくすりを
創るしごと。

明日は変えられる。







astellas

www.astellas.com/jp/

アステラス製薬株式会社

PHC

-  **ADVATAGE 1**
使いやすい入力インターフェイス
-  **ADVATAGE 2**
記録・判断・説明が便利に
-  **ADVATAGE 3**
豊富なデータベースによるチェック機能
-  **ADVATAGE 4**
医療事務業務のさらなる効率化を支援



医事一体型電子カルテシステム
medicom-HRV

お問合せ・デモンストレーションのご依頼などお気軽にご連絡下さい！

PHCメディコムネットワークス株式会社

<https://www.phchd.com/jp/phcmn/>

広島営業所 〒733-0002 広島市西区楠木町 2-8-7 TEL(082)239-3366 (代) FAX(082)238-2279



アレルギー性疾患治療剤

薬価基準収載

ルパフィン錠10mg

RUPAFIN Tablets 10mg (ルパタジンフマル酸塩錠)

処方箋医薬品 [注意 - 医師等の処方箋により使用すること]

※効能・効果、用法・用量、禁忌を含む使用上の注意等については、添付文書をご参照ください。



販売(文献請求先及び問い合わせ先)
田辺三菱製薬株式会社
大阪府中央区道修町3-2-10



製造販売元
帝國製薬株式会社
香川県東かがわ市三本松567番地

2019年4月作成

Eisai

hvc
human health care

患者様の想いを見つめて、
薬は生まれる。

ヒューマン・ヘルスケア企業 エーザイ

エーザイはWHOのリンパ系フィラリア病制圧活動を支援しています。

いつも皆様にお世話になっております、市立三次中央病院 初期研修医 平田悠樹(ひろき)と申します。2018年4月から初期臨床研修として当院にて研修させて頂いております。はやいもので、入職し2年が経とうとしています。

初期研修期間とは、全国の医者が通る道であります。医師国家試験に合格し、大学を卒業した後に、右も左もわからないはじめての病院勤務を、2年間それぞれの所属病院で行います。2年間の間には、内科・外科・小児科・産婦人科などで研修します。様々な診療科で学び幅広い経験を得て、ようやく一人前の医者として働き始めることとなります。

この2年間に三次・庄原・安芸高田など、多くの患者様の診療を、上級医の先生と共にさせて頂き

ました。経験不足のため至らないことも多くあったかもしれませんが、できる限り患者様に寄り添って、主に入院中の担当を致しました。担当した患者様がその後お元気にされていることを願っています。

私事になりますが、実はこの春をもって私の研修期間も終わり、晴れて一人前の医師として働き始めることとなります。4月から3年ほど県外での勤務となります。三次のような地域の総合病院での勤務を希望したため、国内の病院を転々とする3年間を過ごすこと

になりました。次の病院は三重県立志摩病院という、伊勢志摩半島の病院になります。新天地でも三次で学んだことを糧にして精いっぱい働いていく所存です。

4月からは新しい研修医が3名、また中央病院でお世話になることが決まりました。3人は広島大学の出身になります。自分と入れ替わりになってしまうのですが、また一から学び始める後輩ができることを内心うれしく思っています。

市立三次中央病院は、広い県北部地域の総合病院として、様々な患者様に対応させて頂いております。医師も充実しており国から研修指定病院の認定を受けております。その分、地域の皆様にはご迷惑をおかけすることもあるかもしれません。もし研修医の名札を見かけた折には、寛大な心

でご容赦願えれば幸いです。

長文乱文失礼いたしました。次の研修医ともども、今後とも市立三次中央病院をよろしく願いいたします。三次市の皆様もご自愛のほどお祈り申し上げます。



私の主張

2年間の研修を終えて

市立三次中央病院
初期研修医

平田悠樹





フアックス伝言板

最近の インフルエンザ 事情

すざわ小児科
須澤 利文



今冬は2019年12月初旬からA型インフルエンザの流行が始まった。県北部を中心に感染が拡大し、早々にインフルエンザ警報も出された。流行株はAH1 pdm09、2009年に新型インフルエンザとして登場した株が今では季節型インフルと化し毎年のように流行している。一方、B型インフルエンザは、ここ数年は1年ごとに流行しており今年はその流行年に当たる。A型インフルの流行もシーズン

後半からAH3 (A香港型) にも変わることもあり、今後のB型の発生動向と共に興味が持たれる。

昨年華々しく登場したインフルエンザ治療薬のゾフルーザ。今までの薬と違ってウイルスを死滅、根絶させる。ところがウイルスも生き延びるため必死、突然変異を起こし、結局小児では耐性ウイルスが23.4%に発生、しかもその耐性ウイルスは従来の季節性インフルエンザと同じ感染力を持つらしい。よって小児では使えない薬になってしまった。

インフルエンザ罹患時の異常行動、一時期タミフルがその原因、悪役の様に思われたが、データの集積を重ね結局今では「飛び降りなどの異常行動は治療薬の種類や服用の有無に無関係である」ことが明らかになった。要するにインフルエンザそのもののせいであると言う事に結論付けられ、数年間禁止されていた10歳代へのタミフルの投与もようやく解禁された。

インフルエンザウイルスとの攻防は、何かウイルス代表のインフルエンザウイルスと人間との生き残りをかけての戦い？、いや共存を模索した戦いの様にも思えてきます。今後の展望は如何に？





禁煙推進・ 受動喫煙防止活動 報告 2019.10.~12.

あんどう眼科

禁煙推進委員 安藤 仁



三次市役所の敷地内全面禁煙化が施行されてからお蔭様で5年が過ぎました。

広島県内市町で初の敷地内禁煙が、出来た自治体となりました。廿日市市が続いてもらいましたが、その後続きませんでした。

しかし、ヘビースモーカーの市長さんが退任し、新市長さんに受動喫煙防止に熱心な方が就任した福山市では、広島県・福山市子ども及び妊婦を受動喫煙から守る条例を平成30年3月22日可決成立4月1日施行。

福山市庁舎一階授乳室の横に喫煙所があったのですが、令和元年7月より敷地内禁煙化とされました。

やればできますね。

安芸高田市も7月1日より敷地内禁煙化。

他市町は敷地内禁煙となるも、屋外に喫煙場所の設置可という事でしょうか？屋内禁煙で屋外に喫煙所設置可の方が分かりやすい。

2020年(令和2年)4月から健康増進法の一部改正法の施行を受けて、広島県のがん対策推進条例が改正法と同じレベルに引き上

げられます。また、上乘せとして下記の第一種施設のうち、子どもが主たる利用者である学校や児童福祉施設は敷地内禁煙となり、国よりきつく制限されました。

法区分第一種施設/ ・学校・高等専門学校・専修学校・児童福祉施設は敷地内完全禁煙。

一方 ・官公庁施設・医療施設・大学 等は、屋外に喫煙場所の設置可

第二種施設/ 第一種以外で不特定多数の人が出入りする施設は、原則室内禁煙。喫煙を認める場合は喫煙専用室などの設置が必要。

経過処置として経営規模の小さな飲食店は、喫煙可能な場所である旨を掲示することにより、店内で喫煙可能。(喫煙可能部分には、客・従業員ともに20歳未満は立ち入り禁止)

不思議なのは、第2種に国会と裁判所が入っていることです。喫煙政治家が多い国会は自分たちの喫煙場所を確保したのですが、裁判所も同じなのでしょう？率先して敷地内禁煙化を進める立場と思いますが、変ですね。

東京オリンピック・パラリンピックの年です。待ちに待った2020年です。タバコの煙が苦手なものにとって、禁煙場所が無くて飲食店で嫌な思いをさせられてきたことが無くなるはずですが、ルール違反があれば、まず保健所が調査をすることになりますので、ぜひ違反にあったら保健所にご連絡ください。

県北であれば、

合同庁舎 63-5181北部保健所保健課

内線3345 受動喫煙防止担当者 まで。

広島県のがん対策推進条例で定められている受動喫煙防止対策と健康増進法の両者の改正が、スムーズに実行され「きれいな空気」が、どこのお店でもどこの道でも、バス停でも、野球場でも安心して呼吸できることを期待しましょう。マツダスタジアムは第二種施設劇場

等に区分され原則屋内禁煙でしょうか。喫煙するには、喫煙専用室の設置が必要になると。広島市の健康推進課が担当になっています。ぜひ頑張って屋内禁煙にしてください。

10月12日(土)県医師会館大ホールで広島県禁煙支援ネットワーク第17回研修会が行われました。当日は、大風の吹く中バスで医師会館に行きました。台風19号の大風が、1000km離れた広島でも吹き荒れていました。長野県を初め、福島県、宮城県などの東日本の各地で甚大な被害を起こしていました。



禁煙支援ネットワークは、故岩森茂先生が立ち上げられた組織で、医師会・歯科医師会・薬剤師会・看護師会で構成されていて今回の担当は、看護師会で86名が参加しました。もっと多くの人がいた感じでしたが、参加者が少なく残念でした。テーマは、

～脱ニコチン！環境、治療、教育を考える～

基調講演は、元日本赤十字広島看護大学教授ネットワーク運営委員長川根博司先生から



Smoke-Free からTobacco-Freeへと題して行われました。

川根先生についてご紹介させていただきます

す。

先生は、北部保健所で、毎年行われている“たばこ対策関係者の会”に7年前と昨年にお越しいただいて講演をして頂いております。

7年前の時には、講演会の後に川根先生と安信先生と私の3人で話をしました。三次市役所新館が喫煙室を作ることになると安信先生から情報をいただいて対策を練ることに。医師会の協力と多職種で行った平成26年9月の禁煙市役所を求める署名活動が功を奏して、敷地内禁煙の市役所になりました。広島県で初めての敷地内禁煙の市役所です。全国的に見ても早いものでした。

スモークフリーという言葉は、タバコの煙がないという意味で、タバコの煙の無い環境や世界と言う意味ですが、スモーキングフリーと勘違いをされて自由にタバコが吸えると解釈されたこともありました。

スモークフリーという言葉も、タバコ売上額世界第一位のタバコ会社フィリップスモリスが、飛んでもないことに煙が無ければいいんだとタバコであっても煙でない蒸気や目に見えないものなら良いんだと、スモークフリーという定義を勝手に変えて、えせスモークフリー活動をしています。こういうトラックで、煙のない社会をここ日本からと、全国に展開。自分勝手な解釈で加熱式タバコの売り上げを計っています。



企業に対しても喫煙対策について相談に乗りますよと宣伝している。自社製品の煙のないアイコスを売ろうとしている。勝手に解釈して煙のない世界を日本からと言っている。

正式な解釈は、

スモークフリーは、施設内 完全禁煙で、安心できる空間。

ノンスモーキングは、表示のある所では禁煙、施設内のどこかに喫煙できる場所がありという事。不安な空間。(以下は補足です。)

三次市役所は・・・スモークフリー。正解
マツダスタジアムは・・・残念ながら・・・ノンスモーキング。

ネットで、企業の喫煙対策に向けて喫煙課題に対するソリューションサイトを作っています。加熱式タバコを売ろうとしています。とんでもないことです。

改正健康増進法が4月1日から施行されますが、喫煙はマナーからルールと言うのはよいが屋内は禁煙と統一すればいいのに、喫煙室を作れば喫煙をしてもいいですよとか例外を設けて厚生労働省は分かりにくい改正健康増進法を実施してきています。

タバコ会社はこれを悪用して加熱式タバコだけを吸う部屋を作れば、加熱式が普及するのじゃないかなと加熱式タバコ専用ルームを作っています。



あるファミリーレストランの表示です。

Eシガレットも加熱式タバコもダメですよ。

こういう表示が必要になってきそうです。

**スモークフリー から タバコフリー
タバコゼロ 脱ニコチン**

スモークフリーから ニコチンを無くせ!!

WHOも7月28日までに加熱式タバコや電子タバコに関し有害物質が含まれているため健康上のリスクがあると発表。紙巻きタバコと同じような規制が必要と見解を示した。

トランプ米国大統領は、9月11日、香りや味の着いた蒸気を吸う電子タバコについて、ほぼすべての販売を禁止する方針を表明した。「子どもが被害を受けてはならない」と訴え、規制の必要性を強調した。

香料として食品にも使われる成分だが、問題は蒸気にして呼吸器系に吸入するという使い方にある。人間の肺は空気を吸うためのもので、タバコの煙や電子タバコの蒸気を吸入する為には作られていないのだからです。



ジュールという電子タバコが問題になっています。電子タバコの売り上げの半分を占めています。高校生で ジュールの使用率は26% 紙巻きタバコ使用率は6%。リチウムイオン電池を使ってUSBメモリーのようなスタイルでカッコいい、USBジャックから充電できる。スティックの先を変えれば、いろいろな味が楽しめるなど若者好みになっている。

日本禁煙学会は、9月30日に緊急警告(3)加熱式タバコは致死性の肺障害を発生させますと発表し警告しています。厚労大臣に この件について調査研究機関の設置を要請。

基調講演の後には、病院や歯科医師会、広島市健康推進課、薬剤師会などから、禁煙支援についての情報提供がありました。

2003年には薬局で5.4%がタバコ販売をしていて灰皿を10.7%が置いていたそうです。2019年には0.9%が販売をして灰皿を2%がまだ置いてあるそうです。

広島市の喫煙率は、2010年と2016年とで16.6%と変わっていませんでした。2022年目標には11.3%に減らそうとしているそうですので余程の頑張りが必要ですね。

一方、未成年者の喫煙率は、2011年度男性4.2%女性1.8%でしたが、2017年度ではそれぞれ0%だったそうです。あまりにも素晴らしいのですが、アンケートの取り方と真実を答えているか不安が残ります。

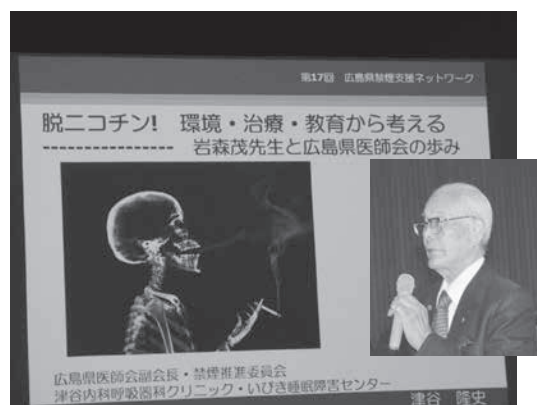
研修会の後で、県医師会の禁煙推進委員会に提案しておりますマツダ球場の禁煙化について広島市健康推進課の方とお話をしました。健康推進課で、何度もカーブ球団に敷地内禁煙化を申し入れされたそうですが実行されていないとのことでした。県医師会禁煙推進委員会と一緒に禁煙化を要望しましょう。スポーツをする所は禁煙が当たり前と東京オリンピック・パラリンピックで実行されるのですから頑張りましょうと激励しました。

広島県健康福祉局がん対策課 豊田義政課長さんから受動喫煙防止対策について報告されました。令和元年7月に一部改正され 令和2年4月1日に全面施行となります。冒頭の近くで触れた第一種施設で受動喫煙による健康影響が大きい子ども、若者、患者等に配慮をしてこれらの施設では敷地内禁煙(屋外

に喫煙場所の設置不可)と改正案に上乗せ規制を行います。

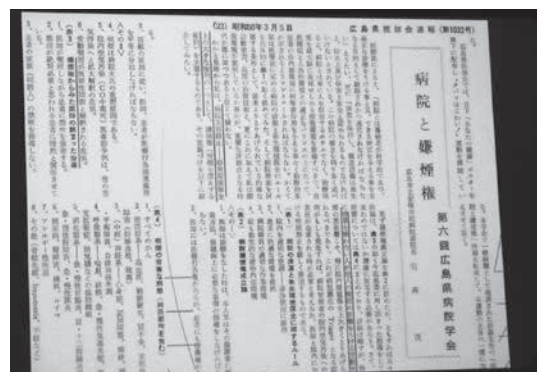
がん対策日本一の実現目指して県民総ぐるみでの取り組みにご協力ください。

特別講演「脱ニコチン！環境・治療・教育から考える」 岩森茂先生と広島県医師会の歩みを、県医師会副会長の津谷隆文先生が丁寧に懐かしむように1時間ほど話されました。



岩森先生がこの禁煙支援ネットワークを立ち上げられました。岩森先生あつての禁煙活動だと思しますので、岩森先生の足跡をご紹介します。平成29年のネットワークでのお姿です。必ず禁煙の研修会には出席され必ず質問をされる。優しくご指導されました。

医師会速報 昭和56年3月5日号の1ページです。



タバコを吸わない人が 他人の喫煙の影響を受ける受動喫煙の悪影響を指摘され、院内環境保全上大きく取り上げられるべきものと言われました。安佐市民病院の副院長としてタバコの煙を病院から排除しようと考えられました。

広島における禁煙指導は当時広島市民病院の村上先生や岩森先生が行われました。

昭和55年に禁煙推進小委員会が出来ましたが、喫煙はスローモーションの殺人行為と捉え昭和60年7月20日にいかめしい会議名の広島県下各市郡地区医師会禁煙推進連絡協議会が出来ました。

当時は割と文学的文章があり面白い。禁煙させるためには、タバコの耕作、栽培を地球慈雨から淘汰させればよい。まことに明快な回答であるが、それがままならぬがこの世の習いであり、生活であり、人間の機微でもある。

そのままならぬ所業「タバコを吸うこと」を、無情にも「やめさせる」推進協議会が全国でも珍しく広島県医師会で開催された。藤谷博義先生が委員をされていました。

役員会だけでもタバコを吸わない実行を強調。結城委員からは診療科が何科であれ医師は患者に禁煙を進めることを付言された。禁煙指導は全疾患への予防であり医療費の削減に通じると声を高らかにした。岩森先生のお人柄をしのぼせるものです。院内をまず禁煙にしようというところから活動を始められています。

広島県医師会として禁煙運動に協力すべき目標を決められています。

1. 日本医師会の禁煙活動を推進する。
2. 禁煙教育の推進 小・中・高校、職場の禁煙教育に積極的に協力する。
3. 公共の場の禁煙推進。
4. たばこの広告と宣伝の禁止

岩森先生は平成3年から津谷先生は平成10年から禁煙推進委員会に入られました。

昭和63年9月たばこから子どもを守る禁煙教育研修会に教師や医師や一般市民など150人が集まり、健やかな次代にするために医師と教師による禁煙教育の在り方が討論されました。

平成4年8月には全国禁煙教育研修会が広島で開催されました。世界でいち早く受動喫煙の被害のデーターを出された「**がんセンター 平山 雄先生**」をゲストに呼ばれていました。**広島県医師会**はこの会に合わせて10日前から**全館禁煙**にしていますが画期的なことでした。

マスメディアと禁煙教育というシンポジウムをされて、**マスコミを禁煙教育に巻き込む**とされていました。

平成11年6月に「たばこから子どもを守る医師と教師と親の会」研修会を開催。

あの頃のタバコを吸う先生が多い学校は、行事の案内も届かないこともあり学校の先生を巻き込むことが難しかった。

岩森先生は、こう言われていました。子どもは親の背中を見て育っている現実を知らねばならない。防煙教育は、まさに家庭における正しいライフスタイルを教える愛の教育から出発すべきであり、喫煙がすべての非行の出発点になることから家庭、学校、地域の密接な協力への監視指導体制がぜひ必要であると呼びかけた。禁煙教育の中には家庭の教育が要であろうという理念で 活動されていました。

平成12年(2000年)2月広島で第9回日本禁煙医師歯科医師連盟総会を会長として開催され、特別講演をされています。

スモークフリーホスピタルの実現に向けて喫煙医師、喫煙ナースの不採用、病院内全面

禁煙（喫煙室可）と、ダストフリーの環境維持の優位性を紹介されています。タバコを吸う医師やナースは雇わないぞと高らかにうたわれました。

この会の禁煙支援ネットワークの第一回総会が行われたのは14年です。子どもの教育の次にあるのは、禁煙に携わる各医療分野の方々とのネットワークが必要と考えられて立ち上げられました。

このように禁煙推進委員は、みな岩森先生にご指導をして頂いた来ました。



左より津谷副会長、平松医師会長、中本議会議長
広島県議会議会棟に喫煙室を設置する方針の撤回を求めて要望書を提出した時の写真。



引き続き禁煙推進委員会の最近の活動について発表されました。

受動喫煙に関する広島県民の意識調査研究2017年11月に第76回日本公衆衛生学会総会で発表されています。

2016年10月に80万人が来場する広島市でのフードフェスティバル18歳以上の男女を対象に3805名から広島大学疫学・疾病制御学教室の協力を受けて県民の健康に関する意識、喫煙・受動喫煙等に関する聞き取り意識調査研究を行いました。男性35%女性65%。広島県民95%。

平成28年4月からがん対策推進条例が施行され施設での受動喫煙防止対策が義務化されていることを知っていたのは26%と低く、さらなる啓発活動が必要。受動喫煙は嫌だと感じているのは、喫煙者でも59%。非喫煙者92%、過去喫煙者81%と多くの人が嫌がっていた。

受動喫煙の機会が1か月以内に多かった場所は、「飲食店」で31%の人が遭遇。

受動喫煙の被害をなくすための方法を聞くと分煙で良いと非喫煙者と過去喫煙者の30%以上が考えていた。分煙では、受動喫煙を予防できないことの啓発がより必要とわかった。喫煙室から人の出入りで煙が漏れる、衣服に着いたタバコ煙付着物からのサードハンドスモーク被害。欠陥喫煙室からの煙もれ等更なる啓発が必要です。

平成30年11月第12回日本禁煙学会学術総会で、禁煙推進委員会委員長長の渡正伸先生が「広島県内の病院における院内禁煙推進の取り組みに関するアンケート調査」を発表。調査対象の239病院中80%の192病院が回答。敷地内禁煙は、67%。建物内禁煙は24%



院内禁煙推進の問題について協議をする場があれば参加されますかと聞いたところ10病院から参加を希望と有りました。協議の場を設ける活動を計画します。

広島市健康福祉局保健部健康推進課の課長さんたちと話す中で、マツダスタジアムの喫煙所問題についてお聞きすることが出来ました。スタジアムの売店が並ぶコンコースにいた時タバコの煙に会いました。変だと思ったら上に喫煙所が煙野放し状態で作られていました。調べたら6か所もありました。何とかしたいですね。

私たちも、広島東洋カープ球団に、喫煙所を無くし敷地内禁煙化を要請していますが改善されていません。何年か前からしていますとのこと。

県医師会禁煙推進委員会で、マツダスタジアムの敷地内禁煙化に取り組むようにしましょう。

スポーツを子どもから高齢者まで幅広く楽しむカープ球団にタバコもニコチンも要らないと、お話をしていきましょう。

広島市健康推進課と一緒に広島県医師会で取り組みましょう。

川根先生には、過去喫煙者の定義はどのようになっていますか？
40年以上喫煙をしていないが過去に2年ほど喫煙をしていた人は、非喫煙者になりますか？ とお聞きしました。

非喫煙者とは、これまで100本以上及び6か月以上タバコを吸っていない者で過去1か月間タバコを吸っていない者です。ですから40年吸ってなくても過去喫煙者になりますでしょうね。 そうですね。

12月4日(水)の夕方に巨大なくっきりした虹が、医療センター方面から三次町の比熊山

にかかっていました。



参加された先生でも見たと言われていました。今日は禁煙外来の研修会ですよとアピール！都合が付かない先生もいて5名で行いました。

作木診療所の佐古先生に初参加していただきました。時々禁煙希望の患者さんがいるとのことでしたので、禁煙指導で頑張っしてほしいとお誘いしました。

最初に、私から禁煙支援ネットワーク研修会の報告を上記のように報告しました。

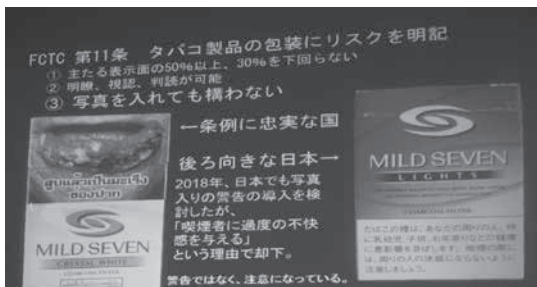
引き続き、三良坂町のたかば内科医院の高場敦久先生からタバコにまつわる知識を色々とお教えしていただきました。

タバコ施策の歴史

1904年煙草専売法

1984年(昭和59年)たばこ事業法 J Tの誕生
製造たばこの販売などによる財政収入源として、たばこ事業の発展を目的に掲げている。財務省の管轄。

2004年(平成16年)たばこ規制枠組み条約 F C T C WHOが、喫煙が健康・社会・環境および経済に及ぼす悪影響から現在および将来の世代を守ることを目的として策定。日本は国会で全会一致で可決・承認を得て、2004年に19番目の国として批准締結国となった。F C T Cを尊重し履行する義務を有する。



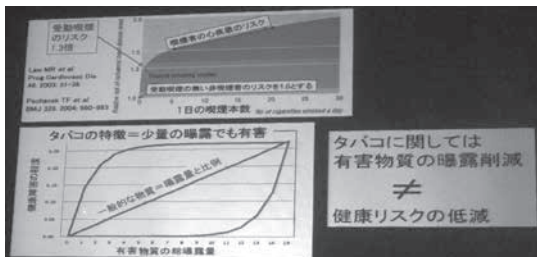
同じタバコでもこの違い。

タイのパッケージ？

FCTC 第8条「受動喫煙からの保護」があります。喫煙室や空気清浄機の工学的な対策では受動喫煙を防止できない。100%屋内禁煙以外手段はないとされています。2010年2月27日までに建物内100%完全禁煙が求められていました。

喫煙室からタバコの煙が漏れる理由は、

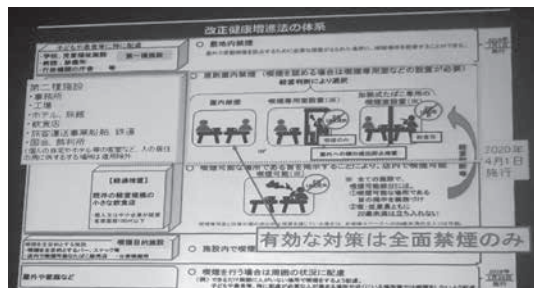
- ① ドアのとびらがフィゴの様に空気を押し出す。
- ② 喫煙室から出る時に身体の後ろに出来る空気の渦でタバコ煙が持ち出される。
- ③ 肺の中に残った煙が、30呼吸程の約2分半は出される。
- ④ 口息と衣服からのガス状物質は長時間発生する。3次喫煙。
紙巻きタバコと心臓のリスク



受動喫煙のリスクは、0.2本吸っても1.3倍になります。わずかな暴露で急上昇。

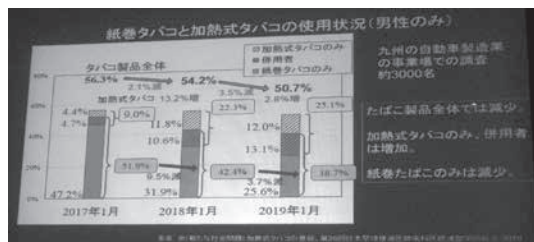
2020.4.1.施行で健康増進法一部改訂されますが受動喫煙防止には全面禁煙が一番。飲食店に加熱式タバコ専用室を設ければ飲食しながらの使用を認めるという残念な

内容になっています。



加熱式タバコの中ではアイコスが最も普及。2014年に日本とイタリアで販売開始。2016年10月では、日本の販売が世界の98%。

紙巻きタバコと加熱式タバコの使用状況(男性)が、発表されています。2019.2.九州の自動車製造業事業所約3000名の調査喫煙率は2017年56.3%から2019年の50.7%と5%以上下がっていますが、加熱式タバコのみ吸っている人が全従業員の4.4%から12%と約3倍に増え、紙巻きタバコも加熱式も吸っている両使用者は、4.7%から13.1%になり、紙巻きタバコだけという人は25.6%に激減しています。



(喫煙者の半数が加熱式を持っているとなると、臭いが少ない加熱式タバコで知らないうちに受動喫煙をさせられやすくなりそうで危険、ステルスニコチンです。安藤)

アイコスを使用したきっかけは？ 2017.1.

- 臭いが少ない 48 %
- 興味があった 42 %
- 周囲に害をあたえない 38 %
- 紙巻きタバコより害少ない 36 %

加熱式は、害が少なく周囲に気を使っているの思いが見られます。

加熱式タバコは喫煙でないと思うは、

2017年17% 2019年15%

加熱式タバコは喫煙か分からないは、

2017年18% 2019年10%

普及につれて喫煙の認識は、10%増加したが、まだ25%の認識不足があります。

加熱式タバコを禁煙場所で使用して良いか？

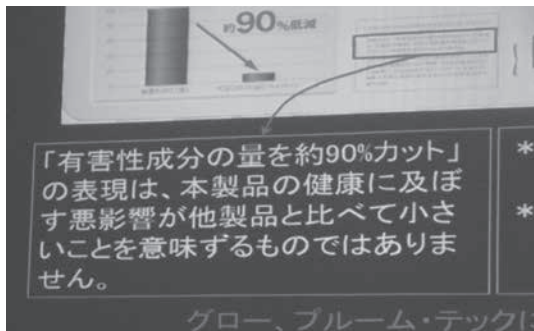
使用できる2017年 17% 2019年 19%

分からない 20% 12%

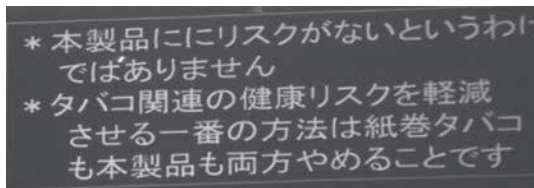
30%以上の人々が、禁煙場所で吸う可能性あり。

紙巻も加熱式タバコも吸う併用者の33%は、部屋の中で家族と一緒にでも吸うとのこと。

タバコに含まれる5300種類の化学物質のうちベンゾピレン、ホルムアルデヒド、ベンゼン、COなど9種類の測定では90%低減したと宣伝しているが、商品リーフレットは本当か？



と、アイコスをはじめ各社にも免責事項の記載。

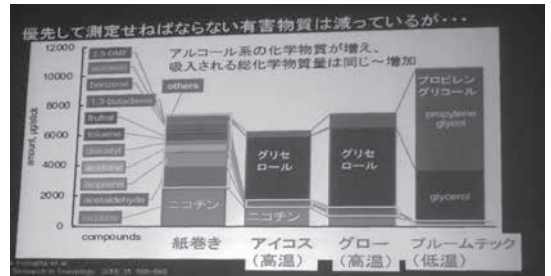


本当のことが書いてありました。タバコ関連の健康リスクを軽減させる一番の方法は、紙巻タバコも本製品=加熱式タバコも両方止めることです。

ここまで小さな字ですが書きましたから、あとは個人で責任はとってね、と言ってます。

優先測定した有害物質は減っているがニコチ

ンはアイコスが半分ぐらい入っている。グリセリンやプロピレングリコールが多く入れられている。同じニコチン量が欲しい人は数多くの本数が必要になり金額がかさむ。肺の奥まで吸い込まれるアルコール系化学物質が安全か不明。



アメリカで、味や香り付き電子タバコの被害が急増しているのも、アルコール系化学物質などの霧やニコチンリキッド、大麻リキッドが原因かと考えられている。(日本では、このニコチンや大麻の入ったものは販売されていません。)

加熱式タバコも電子タバコも、本人はもちろん周囲の人にも被害を及ぼすのは紙巻タバコと一緒に。タバコ会社が製造して儲けているのだとよくわかりました。高場先生ありがとうございました。次回は、4月15日(水)医療センター 19時半から 岡崎先生に開幕迫る東京オリンピック・パラリンピックと脱ニコチン、禁煙についてお話をさせて頂きましょう。ご参加ください。

会 員 紹 介



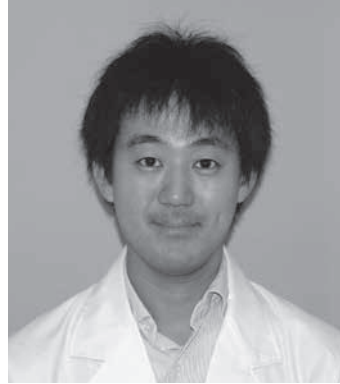
市立三次中央病院 産婦人科
こにしはるひさ
小西晴久

いつも三次地区の先生方にはお世話になっております。2019年6月1日付で異動してまいりました、産婦人科の小西晴久と申します。

私は、呉市広で生まれ、広大付属高校から2009年に広島大学を卒業し、中国労災病院での2年間の初期研修修了後に広島大学産婦人科に入局、以後、広島大学病院や呉医療センター、四国がんセンター、JA広島総合病院を経て現在に至っています。専門分野と言えるほど得意なものはありませんが、大学での基礎研究は早産に関するものであった一方、臨床面では婦人科疾患に主に関心を持っています。分娩に、手術に、女性医学に、なんでも頑張りますので是非とも該当患者様がおられましたらご紹介よろしく願いいたします。

現在、三次に異動後約半年が経過しました。県北での生活は初めてで不安もありましたが、夏はピオーネに秋は梨やりんごを美味しくいただき、紅葉も十分に楽しみ、とても楽しく過ごしています。また昨年、自ら帝王切開で取りあげたそろそろ1歳になろうとする我が子も、日々いろんな施設の支援センターなどを利用し楽しんでいきます。

引き続き公私ともに楽しみながら精進していく所存です。どうぞご高配賜りよろしくお願い申し上げます。



市立三次中央病院 麻酔科
きむらひろし
木村央

8月に赴任してまいりました、麻酔科の木村央と申します。JA尾道総合病院より異動となり、現在医師8年目となります。赴任して5か月経ち、ようやく仕事にも生活にも慣れ始めてきましたが、県北の寒さは想像以上のものがありました。まだ三次はあまり開拓できておりませんが、リーズナブルで、美味しい食事処が多くあり、人情味あふれる地域という印象です。

病院全体としては、各科やコメディカルの垣根が低く、コンサルトなどもしやすく、とてもよい環境で働かせていただいています。三次で働くのは初めてですが、中学・高校の頃に何度か訪れたことがあり、個人的に思い入れのある地となっています。当院は備北地域の最後の砦であると感じています。まだまだ若輩者で関係の皆様にはご迷惑をおかけすることも多々あると存じますが、備北地域の医療に貢献できるよう精進してまいりますので、よろしくお願い申し上げます。



市立三次中央病院 血液内科
ふじ の けい た
 藤野 啓太

2019年10月に赴任しました血液内科の藤野啓太と申します。これまでは呉医療センター、広島大学病院で初期研修を行った後、広島大学病院で1年半勤務を行いました。「ふるさと枠」で広島大学に入学した経緯もあり、この度は三次で勤務させていただくこととなりました。三次中央病院では血液内科外来、入院診療を行っています。化学療法は、悪性リンパ腫に対する標準治療であるR-CHOP療法など、これまで備北医療圏で行っていなかった治療を開始しています。また広島大学病院などの関連病院との連携、血液疾患の終末期に対する緩和医療にも取り組んでおります。血算の異常や血液疾患を疑う場合はいつでもご相談ください。まだ診療の幅は十分とは言えず、先生方にはご迷惑をおかけすることもあるかと存じますが、三次地区の医療に貢献できるよう努力して参ります。どうぞよろしくお願ひ致します。

会 員 異 動

(入 会)

市立三次中央病院
 市立三次中央病院

江 口 勇 太 (広島市医師会)
 藤 野 圭 太 (呉市医師会)

異動元

異動日

令和1年10月1日)
 令和1年10月1日)

(退 会)

市立三次中央病院
 市立三次中央病院
 加美川クリニック

山 岡 尚 平 (広島県医師会)
 吉 岡 紘 輝 (退職)
 加美川 弘 之 (

異動先

異動日

令和1年9月30日)
 令和1年9月30日)
 令和1年12月31日)



Better Health, Brighter Future

タケダから、世界中の人々へ。より健やかで輝かしい明日を。

武田薬品工業株式会社
www.takeda.com/jp



協和キリン株式会社

KYOWA KIRIN

私たちの志 検索

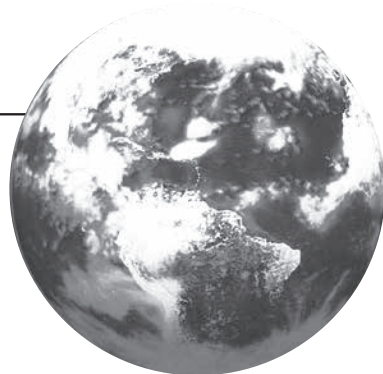
2019年7月作成



佐々木印刷株式会社

とんがったマルで未来を見つめる
情報/文化/創造

地球環境と人にやさしい印刷に
取り組んでいます



TEL **0824-62-3539** FAX **0824-63-2829**
広島県三次市東酒屋町306-55 〒728-0023 URL <http://www.sskp.co.jp>

医師会事業所現況報告

医療センター入院実績（病床数150床）							(R1.8～R1.11)	
項目	8月	9月	10月	11月	合計	平均	備考	
新入院患者	78	64	73	68	283	70.8		
内（救急入院）	1	2	2	4	9	2.3		
退院患者	78	62	70	72	282	70.5		
月末在院患者	108	110	113	109	440	110.0		
在院患者延数	3,453	3,513	3,409	3,387	13,762	3,440.5		
平均入院患者数	111.4	117.1	110.0	112.9	451	112.9		
協同指導回数	4	17	11	5	37	9.3		
実働病床利用率	74.3	78.1	73.3	75.3	—	75.3		
検査外来患者数	861	844	909	875	3,489	872.3		
その他（ドック）	301	316	425	306	1,348	337.0		
三次市休日夜間急患センター外来実績							(R1.8～R1.11)	
市 町	8月	9月	10月	11月	合計	平均	備考	
旧 三 次 市	199	139	107	113	558	139.5		
吉 舎 町	18	13	8	8	47	11.8		
三 和 町	9	3	6	4	22	5.5		
三 良 坂 町	10	5	2	12	29	7.3		
君 田 町	5	2	6	8	21	5.3		
布 野 町	8	10	5	4	27	6.8		
作 木 町	3	5	5	1	14	3.5		
甲 奴 町	4	3	3	1	11	2.8		
そ の 他	49	24	19	23	115	28.8		
合 計	305	204	161	174	844	211.0		

**介護老人保健施設あさぎり利用実績
(入所・短期入所定員80名)**

(R1.8～R1.11)

項 目	8月	9月	10月	11月	合計	平均	備 考
入 所 者 延 日 数	2,239	2,173	2,120	2,015	8,547	2,136.8	
当 月 新 入 所 者 数	9	4	7	10	30	7.5	
当 月 退 所 者 数	11	6	12	11	40	10.0	
月 末 在 所 者 数	73	71	66	66	276	69.0	
当 月 入 所 者 数	81	76	77	73	307	76.8	
1 日 平 均 入 所 者 数	72.2	72.4	68.4	67.1	—	70.0	
短 期 入 所 者 延 数	99	101	151	199	550	137.5	
短 期 入 所 利 用 者 数	15	14	20	22	71	17.8	
1 日 平 均 短 期 入 所 者 数	3.1	3.3	4.8	6.6	—	4.5	
入 所 計	75.3	75.7	73.2	73.7	297.9	74.5	

(通所・介護予防定員50名)

(R1.8～R1.11)

項 目	8月	9月	10月	11月	合計	平均	備 考
通 所 利 用 者 数	576	559	611	590	2,336	584.0	
新 通 所 者 数	0	0	3	2	5	1.3	
実 施 日 数	19	21	23	21	84	21.0	
1 日 平 均 通 所 者 数	30.3	26.6	26.5	28.0	—	27.9	
介 護 予 防 利 用 者 数	73	95	85	77	330	82.5	
新 利 用 者 数	0	0	0	0	0	0.0	
実 施 日 数	19	21	23	21	84	21.0	
1 日 平 均 利 用 者 数	3.8	4.5	3.6	3.6	—	3.9	
通 所 計	34.1	31.1	30.1	31.6	126.9	31.7	
訪 問 リ ハ 利 用 者 数	402	247	270	250	1,169	292.3	
新 利 用 者 数	5	0	5	5	15	3.8	
実 施 日 数	19	19	21	20	79	19.8	
1 日 平 均 利 用 者 数	21.1	13.0	12.8	12.5	—	14.9	

- | | |
|---|--|
| <p>8 . 2</p> <ul style="list-style-type: none"> • 巴杏167号 編集委員会
(医師会多目的室) • 広島県地対協 定例理事会
鳴戸謙嗣会長出席
(広島県医師会館) <p>8 . 6</p> <ul style="list-style-type: none"> • 広島県医師会 理事会
鳴戸謙嗣会長出席
(広島県医師会館) <p>8 .19</p> <ul style="list-style-type: none"> • 広島県医師会 会費改定検討委員会
鳴戸謙嗣会長出席
(広島県医師会館) <p>8 .21</p> <ul style="list-style-type: none"> • 執行部会 (医師会多目的室) <p>8 .25</p> <ul style="list-style-type: none"> • 地域包括診療加算等に係るかかりつけ医 研修会(広島県医師会館) <p>8 .26</p> <ul style="list-style-type: none"> • 市郡地区医師会地域医療構想・医師偏在対策担当理事連絡協議会
鳴戸謙嗣会長、中西敏夫理事出席
(広島県医師会館) • 備北高血圧治療セミナー
①学術講演会
演題「新しい塩の考え方とMRB」
講師 香川大学医学部 薬理学
教授 西山 成 先生
(グランラセーレ三次) <p>9 . 3</p> <ul style="list-style-type: none"> • 広島県医師会 理事会
鳴戸謙嗣会長出席
(広島県医師会館) <p>9 . 5</p> <ul style="list-style-type: none"> • 集団災害医療救護訓練 準備会議
(市立三次中央病院) <p>9 . 7</p> <ul style="list-style-type: none"> • 第28回 全国医師会共同利用施設
～ 8 総会
(ホテルアンドリゾーツ伊勢志摩) <p>9 . 9</p> <ul style="list-style-type: none"> • 広島県地域医療構想調整会議
中西敏夫理事出席
(広島県庁) <p>9 .11</p> <ul style="list-style-type: none"> • 執行部会 (医師会多目的室) | <p>9 .12</p> <ul style="list-style-type: none"> • 備北地対協 感染症講演会
①学術講演会
演題「小児に多い感染症とその対応・予防」
講師 渡辺小児科循環器クリニック
院長 渡邊弘司 先生
(広島県庁三次庁舎) <p>9 .18</p> <ul style="list-style-type: none"> • 理事会
・三次市からの報告
・医療センターの空調更新について他
(医師会多目的室) <p>9 .19</p> <ul style="list-style-type: none"> • 三師会合同研修会 ①学術講演会
演題1「骨粗鬆症と顎骨壊死
～骨粗鬆症・がん治療における
医師薬行政多職種連携～」
講師 呉共済病院 歯科口腔外科
部長 東森秀年 先生
演題2「ARONJ対策から始まった呉市での骨粗鬆症連携」
講師 医療法人沖本クリニック
院長 沖本信和 先生
(グランラセーレ三次) • 新規個別指導
鳴戸謙嗣会長立会
(広島合同庁舎) <p>9 .25</p> <ul style="list-style-type: none"> • 執行部会 (医師会多目的室) <p>9 .26</p> <ul style="list-style-type: none"> • 市立三次中央病院運営協議会
鳴戸謙嗣会長出席
(市立三次中央病院) <p>10 . 1</p> <ul style="list-style-type: none"> • 広島県医師会 理事会
鳴戸謙嗣会長出席
(広島県医師会館) <p>10 . 5</p> <ul style="list-style-type: none"> • 成年後見制度講演会
(三次市福祉保健センター) <p>10 . 6</p> <ul style="list-style-type: none"> • 圏域地対協研修会
特別講演「地域医療構想の推進に |
|---|--|

- に向けた取り組みについて」
 講師 広島県医師会 常任理事
 地域医療連携推進法人備北
 メディカルネットワーク
 代表理事 中西敏夫 先生
 (グランラセーレ三次)
- 10 . 8 • 広島県医師会 市郡地区医師会長
 協議会 鳴戸謙嗣会長出席
 (広島県医師会館)
- 10 . 9 • 執行部会 (医師会多目的室)
- 10 .10 • ㊸学術講演会
 演題「医療従事者なら知っておきたい不安・不眠への効果的な対処法～コミュニケーションのコツとベンゾジアゼピン系向精神薬の適正使用～」
 講師 市立三次中央病院
 緩和ケア内科
 医長 佐伯俊成 先生
 (市立三次中央病院)
- 10 .15 • 備北地区抗血栓療法講演会
 ㊸学術講演会
 演題「抗凝固療法の神話と真実」
 講師 横浜市立大学附属病院
 循環器内科
 教授 石川利之 先生
 (三次グランドホテル)
- 10 .17 • 三次地区医師会 産業医研修会
 演題「職場におけるアルコール健康障害への介入」
 講師 広島産業保健総合支援センター
 相談員 菰口陽明 先生
 (三次生涯学習センター)
- 10 .23 • 医師会諸規定検討会議
 (医師会多目的室)
 • 広島県医師会・広島県警察連絡協議会 総会
 (ホテルグランヴィア広島)
- 10 .24 • 備北地区発達障害児者医療研修会
 (子鹿医療療育センター)
 • 産業保健支援センター運営委員会
 (医師会多目的室)
 • 備北地対協理事会
 (グランラセーレ三次)
- 10 .27 • 地域医療ケア加算 研修会
 (市立三次中央病院)
- 10 .28 • 急患センター WG
 (医師会多目的室)
- 10 .30 • 急患センター WG
 (医師会多目的室)
 • 運営委員会 (医師会多目的室)
 • 地域医療構想に関する自治体との意見交換会
 (岡山コンベンションセンター)
- 10 .31 • 患者アドボカシーに関する職員研修会(備北メディカルネットワーク)
 (市立三次中央病院)
- 11 . 3 • 広島県集団災害医療救護訓練
 (市立三次中央病院)
- 11 . 5 • 巴杏167号 発刊
 • 広島県医師会 理事会
 鳴戸謙嗣会長出席
 (広島県医師会館)
- 11 . 7 • 第70回広島医学会北部支部大会及び令和元年度三次地区医師会・庄原市医師会・安芸高田市医師会市立三次中央病院・庄原赤十字病院合同カンファレンス
 演題「心不全診療の進歩と残された問題」
 講師 広島大学大学院
 医系科学研究科
 循環器内科学
 教授 木原康樹 先生
 (グランラセーレ三次)
- 11 . 9 • 地域包括ケア講演会

- (三次ふれあい会館)
- 11 .13 • 執行部会 (医師会多目的室)
- 11 .14 • 在宅緩和ケア研修会
 ①学術講演会
 演題「患者・家族を支えるコミュニケーション技術の要点
 ～上手な聴き方の五原則、
 『影響力』の7か条～」
 講師 市立三次中央病院
 緩和ケア内科
 医長 佐伯俊成 先生
 (グランラセーレ三次)
 地対協 かかりつけ医等地域医療
 連携研修会 ①学術講演会
 演題「自殺につながるうつ病のサ
 インへの気づきと効果的な
 対処のための心得～備北県
 高齢者自殺実態調査の結果
 を踏まえて～」
 講師 市立三次中央病院
 緩和ケア内科
 医長 佐伯俊成 先生
 (グランラセーレ三次)
- 11 .20 • 広島県医師会 会費改定検討委員会
 財務委員会
 (広島県医師会館)
- 11 .21 • 在宅緩和ケア研修会
 ①学術講演会
 (庄原グランドホテル)
 • 第31回広島県北部腎不全研究会
 ①学術講演会
 演題「三次地区における透析導入
 患者の現状」
 講師 市立三次中央病院
 腎臓内科 弓場義雄 先生
 演題「慢性腎臓病の外来管理につ
 いて」
 講師 庄原赤十字病院
- 腎臓内科部長
 本多由美 先生
 (三次福祉保健センター)
- 11 .24 • 広島医学会総会
 (広島県医師会館)
- 11 .25 • 循環器疾患治療セミナー
 ①学術講演会
 演題「倉敷地区での心不全患者に
 対する取り組み
 ～心房細動合併心不全患者にお
 ける抗凝固療法無含めて～」
 倉敷中央病院 循環器内科
 医長 川瀬裕一 先生
 (三次グランドホテル)
- 11 .26 • 備北メディカルネットワーク
 臨床病理検討会
 (庄原赤十字病院)
- 11 .27 • 三次地区理事会
 • 医療センターの空調更新について
 • 広島県労災指定医協会北部支部に
 ついて 他
 (三次グランドホテル)
 • 三次地区医師会・庄原市医師会・
 広島県医師会 合同理事会
 (三次グランドホテル)
- 11 .28 • 就学時健康診断
 (派遣医師：伊藤雅啓)
 (ペペらホール)
- 11 .29 • 第37回備北循環器フォーラム
 ①学術講演会
 演題「健康寿命を延ばす循環器イ
 ベント抑制における糖尿病
 治療」
 福井大学医学部
 病態制御医学講座
 循環器内科学
 准教授 宇随弘泰 先生
 (三次グランドホテル)

編 集 後 記

私たちが子どもの頃、鉄腕アトムの住む夢の21世紀は平和で豊かな時代になると教えられ、また皆もそうなるものと信じていました。ところが現実はどうでしょう。地球温暖化によると思われる自然災害は常態化。核の脅威（原発の事故や核兵器など）も依然続いています。さらに今世の中は中国武漢市で発生し、急速に世界中へ拡大している新型コロナウイルス肺炎で大混乱に陥っています。武漢の海鮮市場内で扱われていた野生動物（コウモリやヘビなど）から人に感染した可能性が指摘されています。動物から人にうつる新しい感染症は怖いですね。

さて令和2年最初の巴杏をお届けします。巻頭言で三次地区医師会副会長の重信和也先生は医師会の現状や課題についてのお考えを述べられています。特別寄稿は前田弁護士さんに三次市における骨髄バンク啓発活動について書いてもらいました。折しも、かつての広島カープの大エース北別府学投手が成人T細胞白血病で入院治療を始める、いずれ骨髄移植を受けると報道されました。治療が成功することを願っております。

お忙しい中、寄稿いただいた皆様に感謝いたします。今年は暖冬から始まりましたが、この一年間は災害などなく、幸多き年になるよう祈っています。

すぎわ小児科 須澤利文

（編集委員）

栗本 清伸	安藤 仁
加美川 誠	須澤 利文
箕岡 康明	松尾洋一郎
久行 敦士	高場 敦久
立本 直邦	

発 行／一般社団法人 三次地区医師会

発行日／令 和 2 年 3 月

印 刷／佐々木印刷株式会社



JR発足後、路線距離が100kmを超える鉄道路線の全線廃止は本州では初の事例となった三江線廃止から間もなく1年が経ちます。

巴杏164号にご寄稿いただいた多田誠先生「三江線、最後の季節を追って」より、神楽のキャラクターを施したキハ120形のカラー写真を掲載いたします。廃線が決まったのを機に多くの乗客を乗せて走る姿は往時を偲ばせます。

巴杏編集委員会

